

徹子が黙ったとき： テレビトーク番組の相互作用分析¹⁾

南 保輔

キーワード：テレビトーク番組，相互作用分析，インタビュー技法，再演，『徹子の部屋』，『スタジオパークからこんにちは』

1 はじめに

「トーク番組」と呼ぶのだろうか。スタジオにゲストを招き、ホストあるいはホステスとの会話を中心に作り上げられているテレビ番組がある。なかでも同じホステスが一貫して務めているということで有名なのが、テレビ朝日の『徹子の部屋』である。「変化」や「思い出」がどのように語られるかという問題意識を追求する一貫として、トーク番組の比較を行った。同じゲストによる「同じ思い出」の語られ方が、いわゆる文脈というものによって、そしてとりわけホストの聞き出し方によってどのように違って来るかを明らかにすることを目的とした。

番組のウェブサイトによると (<http://www.tv-asahi.co.jp/tetsuko/> 2007年11月7日アクセス)、『徹子の部屋』の放送開始は1976年2月2日で、午後1時15分からの40分番組だった。2007年秋には放送32年目にはいっており、月曜日から金曜日までの週5日放送なので、2007年3月2日には放送8,000回を迎えている。

比較対象としてはNHKの番組『スタジオパークからこんにちは』を取り上げた。NHKにもいくつかのトーク番組があるが、ほぼ毎日放送されている点と、放送時間帯が午後1時5分から2時までで、東京キー局のテレビ朝日で午後1時20分から33分間放送という『徹子の部屋』と重なるという理由からこれを選んだ。ウィキペディアによると (<http://ja.wikipedia.org/wiki/スタジオパークからこんにちは> 2007年11月7日アクセス)、『スタジオパークからこんに

ちは』は1995年4月に開始されている。聞き手は男性と女性のペアで、初代は堀尾正明アナウンサーと4人の女性タレントが組むコンビだった。2000年4月に上田早苗アナウンサーに替わってからは女性のアナウンサーがメインとなった。2004年4月から渡邊あゆみ、2006年4月から有働由美子、2007年6月から武内陶子とメインホステスは替わっている。午後1時5分から放送開始という点は変化がないが、1998年4月からの4年間は14時28分までだったことがある。

トーク番組のゲストを選ぶ基準としては、そのひとの話す内容に話題性があるということがあるのだろう。イギリスとアメリカの「ニュースインタビュー」を比較した Clayman と Heritage は、インタビューのタイプによって「話題の人 (newsmaker) インタビュー」、「背景インタビュー」、「ディベートインタビュー」の3つを区別している。ある政策の主唱者をインタビューとするのが「ディベートインタビュー」、専門家をインタビューとしてある出来事についてコメントさせるのが「背景インタビュー」である。「話題の人インタビュー」とは「ニュース」となる出来事の当事者をインタビューとするものだ (2002:68-72)。

『徹子の部屋』や『スタジオパークからこんにちは』といったトーク番組は、Clayman たちの分類に従えば、「話題の人インタビュー」ということになるだろう。「ゲストをだれにするか、黒柳さんから提案するんですか」と聞かれて、黒柳徹子 (以下「徹子」とする) は以下のように答えている。

ほとんど私は口を出しません。『徹子の部屋』に出たいといって、私にいろんなものを送ってくる方が、たくさんいらっしゃるんです。それは全部プロデューサーに渡して、「皆さんでお考えください」と言っています。親しい人から来ても、「そちらで協議してください」って。私は自分の意見は言いません。もしも私が意見を言っていたら、こんなに長くは続かなかったと思います。みんながほぼ決めて、そうですね、93パーセントぐらい (笑) みんなが決めた段階で、私に「どうですか?」と言ってきて、「よろしいのではないですか」というのが最終段階です。

(黒柳 2005:11-12)

『徹子の部屋』と『スタジオパークからこんにちは』で、後に見るように、それほど間隔をおかずに同じゲストが出演するということが見られた。3節で取

り上げる武田鉄矢のように、『スタジオパークからこんにちは』には番組宣伝のためにゲストとして選ばれているということがはっきりしていることもある。いずれにしても、ゲストはその時点で視聴者の関心を引きつける話題性を有している必要がある。そのためもあって、同じ人物が異なるトーク番組に相次いで出演するということが起こるのだと思われる。

2 方 法

本論文で報告する分析は、南が担当する授業の課題として行ったものを土台としている。まず、この課題の説明から始めることにしよう。

成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科の2年生向け必修科目として、「マスコミ基礎演習」という授業がある。マスコミ学科の専任教員全員が担当し、卒業論文作成に向けて学生各自が問題意識を深めていく重要なステップのひとつと位置づけられている。学生10人前後という少人数の半期科目である。南担当のものでは、3つの調査プロジェクトを行い小論文を書くことになっている。1つめがインタビュー調査、2つめが観察にもとづくフィールドノート調査、そして3つめがミクロ相互作用分析調査である。この3つめの調査プロジェクト素材として、トーク番組を取り上げている²⁾。

音声発話のトランスクリプトを作るという作業は時間がとてもかかる。そして、ひとつひとつの発話について「分析する」という作業は、学生を途方に暮れさせるものだ。だが、この課題を10年以上にわたって課してきた経験から、その意義は十分あると判断した³⁾。

『徹子の部屋』と『スタジオパークからこんにちは』の比較には、インタビュー技法を考えるというねらいもある。学生はすでに、インタビュー調査プロジェクトを行っている。トーク番組が、これを反省的に検討する契機となると期待された。どの放送を取り上げるかだが、同じゲストが登場しているものを選びだした。これは、「同じ話」がどのようになされているかを比較することで、「インタビュー技法」の対比がしやすくなると考えたからだ。一例として、表1に2006年後期の授業で取り上げた番組一覧を示す。

1人のゲストにたいして学生は2人が割り振られた。学生はまず最初に、

表1 2006年後期の授業で取り上げた番組

| ゲスト名 | 『スタバ』放送日 | 『部屋』放送日 | 先の放送 | 間隔 |
|-------|-----------|-----------|-------|-----|
| 武田鉄矢 | 06年01月12日 | 06年05月29日 | 『スタバ』 | 4ヶ月 |
| 緒形拳 | 06年05月01日 | 05年11月25日 | 『部屋』 | 5ヶ月 |
| 南こうせつ | 05年11月01日 | 06年07月27日 | 『スタバ』 | 9ヶ月 |
| 岡崎朋美 | 06年03月09日 | 06年04月05日 | 『スタバ』 | 1ヶ月 |
| 山瀬まみ | 06年10月25日 | 06年03月03日 | 『部屋』 | 7ヶ月 |
| 玉木宏 | 06年02月16日 | 06年10月27日 | 『スタバ』 | 8ヶ月 |

『徹子の部屋』と『スタジオパークからこんにちは』のどちらかを担当して、番組構成表をエクセルで作成した。表2は、例示用に南が作成した、武田鉄矢がゲストのときの『徹子の部屋』のものである（ただし、配布時そのままではなく、本論文用に修正してある）。

構成表には、番組全体の流れ一覧を示す。トランスクリプトを作成する部分を選びだす助けとするためだ。民放番組である『徹子の部屋』の場合コマーシャルが入っている。その部分をまず区別する。そして、つぎに、部分ごとのテーマにしたがって分ける。『徹子の部屋』の場合、画面の右下にゲストの氏名とともに、その時点の話題がたとえば「年頃の娘たちは……」のようにテロップとして入る。これをすべて拾い出した。表中で引用符がついているのは、テロップであることを示す。ただ、それだけでは部分によってはかなり長いので、そのなかで、さらに話題を細分できるところを分けた。その際に、写真やVTRがあればそれも拾い出すことにした。話題の焦点となることが多いからだ。最後の列に、その部分の鍵となる発話を記録している。学生にはこの構成表を配布して参考にするようにと指示したが、どれだけ忠実にしているかはそれぞれである。

つぎに、作成した構成表を元に分析する箇所を選び出した。それぞれの番組の30秒から1分前後の部分について、トランスクリプトを作成して分析することにした。そのときに、「同じ話」が2つの番組でどのように違っているかという観点から分析部分を選ぶことを推奨した。会話分析の方法では、ある「現象」、たとえばIRE連鎖（Mehan 1979；五十嵐 2007:178）の事例をいくつか収集して、それを分析していくということが必要となる。だが、マスコミ基礎演習という授業を履修している学生のほぼ全員が、エスノメソドロジーや会話分析、あるいは、社会学という学問すら体系的に学んでいない。会話分析がめ

表2 武田鉄矢『徹子の部屋』構成表 (06年05月29日(月)放送)

| 開始分秒 | テロップなど | 写真(P)とVTR | 鍵となる発話 |
|-------|----------------|--------------|---|
| 00:33 | 『徹子の部屋』 | V：芝居場面 | お芝居で、ご自分のお母様を、女形で演じていらっしゃるかたが今日のお客様です。 |
| 01:03 | コマーシャル | | 【芙蓉商事グループ工房；朝日新聞；アリコ保険】 |
| 03:03 | 『年頃の娘たちは…』 | P：母親と・母親と | 俳優、そして音楽家でいらっしゃいます武田鉄矢さん、お客様です。 |
| 04:54 | 『亡き母へ深まる思い』 | P：母親と・母親と | さて、あなたがお母様、母に捧げるバラードも、 |
| 07:23 | 母親の芝居 | P：芝居場面 | それで、お母様は8年前にお亡くなりになり、イクさんで |
| 08:46 | 鉄矢を送りだす母の気持ち | V：27年前の出演 | りかい、子どものことを理解できました、そしたら。 |
| 09:08 | 27年前の初出演 | V：芝居場面 | でもね、あなた、お母様のことを27年前、 |
| 10:23 | 『恐怖のタワシ踊り』 | VTR 終了 | とおっしゃっていたのですが、 |
| 11:43 | | P：母親 | あれほんとに音楽、この音楽なんですか |
| 12:42 | 父親を絞めようかと | P：母親 | あなたのおかあさまはさあ、まえにうかがったけど |
| 13:41 | 『心に残る母の名言』 | | でも、イクさんとおっしゃる |
| 14:27 | 小学生の頃 | P：クラス写真・子どもと | 食いすぎるといふんですね。 |
| 16:17 | 子育ての苦労 | | でもあなたのおかあさまも5人きょうだい、 |
| 17:25 | コマーシャル | | 【全塚石；アメリカンホーム保険会社；エバラ】 |
| 19:25 | 『演じて知った親の大きさ』 | | いや、いまビビックリしたんですけど、 |
| 20:33 | 20万人の観客 | P：芝居場面・芝居場面 | でもう、母に捧げるバラードは20万人に近いお客さんに来ていただきましたね |
| 22:42 | 金八先生 | | だから、そういうことがあるから、あなたは金八先生 |
| 22:51 | 『どん底支えた妻のひと言』 | | マッチが40か41になってるわけじゃないですか、15だったマッチが。 |
| 23:08 | 『母に捧げるバラード』 | P：シングルジャケット | でも、それのまえに、 |
| 24:50 | コマーシャル | | 【大正製薬；やすや；ダスキン；センタン；ヘルシアウォーター】 |
| 26:20 | コマーシャル終わり | | それにしても、母に捧げるバラードを4年前におやりになったときに、 |
| 26:51 | 『舞台で声が出なくなり…』 | P：芝居場面 | 芝居はもう、ダメ声で乗り切ったんですけど、 |
| 27:41 | 『中日福留孝介選手』 | P：福留選手 | 野球選手はまだ楽です。リリーフとか選手交代がありますから。 |
| 28:51 | 茶髪カップル | | それと、やっぱり、劇場によっては、風体がハッとするようなカップルがいたりする。 |
| 29:32 | 『番組からのお知らせ』 | | 【スタジオ観覧の案内】 |
| 30:47 | 高校生の団体観劇 | | 全員スタンディングオベーション |
| 30:22 | コマーシャル | | 【ポピンC；オムロン；DAKARA；爪水虫；成田新ターミナル；アースジェット】 |
| 31:52 | コマーシャル終わり | 人形 | でそのかわいらしいもの |
| 32:19 | 『母に捧げるラストバラード』 | P：芝居宣伝 | あのおう、娘たちが踊る、タワシ踊りに送られて。 |
| 33:00 | 終了 コマーシャル開始 | | |

ざす「形式」に照準した事例収集は望めない。「内容」に着目した分析とした次第である。

授業では、分析結果を学生が発表した。自分が選んだ部分のトランスクリプトを用意して、その部分についてのビデオ映像を視聴し、観察・分析を報告した。その後、指導教員やほかの学生のコメントをもとに小論文を完成させた。参考として、付録1にその課題の説明用に配布したハンドアウトを掲載しておく。

以上、授業課題の紹介をしてきた。本論文では、次節以降3人のゲストのものを取り上げるが、そのうちの2つは、元は学生が作成したトランスクリプトを利用している。「同じ話題」の部分として報告され、南もたいへん興味深いと思ったものだ。以下は、南の分析手順について記述しておく。

番組は、パナソニックのDVDレコーダ DMR-EH66 を使ってアナログ放送を録画した。DVD1枚に約2時間録画できる標準のSPモードでハードディスクに録画したものを、DVD-RAMに順次保存していった。分析に際しては、Macを使用してmpegファイル化し、これをmpeg4ファイルへと変換して分析に使用した。使用した機材は、MacBook Pro (17インチ液晶モデル 2.33GHz Intel Core 2 Duo、MJ611J/A) でOSは10.4.10と、ピクセラのDVDスーパーマルチドライブ (PIX-DVRR/FW7)、使用ソフトは、Pixe VRF Browser EX 2.6.3 と MPEG Streamclip 1.8 である。

視聴・分析時に使用したのは、Listen & Type 3.2 というソフトウェアである。これを使うとmpeg4ファイルで、再生時点のコントロールをキーボード上から行うことができる⁴⁾。フレームまで表示する必要があるときに便利だったのは、MPEG Streamclip だ。構成表の作成は、Listen & Type 3.2 を使いながらエクセルで行った。トランスクリプト作成には、egword Universal 2 というMac用のワープロソフトを使用した。

3 「思い出」の語らせ方：武田鉄矢

本節では、武田鉄矢をゲストとする『徹子の部屋』（以下、『部屋』とする）と『スタジオパークからこんにちは』（以下、『スタパ』とする）との比較を行う。1節でもふれたが、本研究の根源的な問題関心は、ひとは昔のことをどの

ように語るのか。その評価と語り方はどのような関係にあるのだろうかというものだ。「思い出」と呼べるようなものがどのように語られるかを調べたいということである。表1に見られるように、武田鉄矢は2006年1月12日に『スタバ』にゲストとして出演し、その4ヶ月半後にあたる5月29日に『部屋』に出演している。これら2つの放送をここでは取り上げる。

3-1 鉄矢『スタジオパークからこんにちは』の流れ

表3は、武田鉄矢（以下、鉄矢）出演時の『スタバ』の構成表である。これを使いながら『スタバ』のおおまかな流れをまず説明する。キャスター2人がゲストをスタジオの外で迎える。そこで簡単な紹介をしてから、トークを行うスタジオへ歩いていく。そのあいだは番組のテーマソングが流れて、観客と握手したり手を振ったりしながら歩くゲストの姿が映し出される。たいていのゲストが観客と握手をしていると思い込んでいたのだが、鉄矢は水仙の花束を両手で抱えているからか、観客と握手するということはなかった。

この日は福井県からやってきた「水仙娘」が登場して、ゲストの鉄矢に花束を手渡したが、このような演出はそれほど多くないという印象がある。また、冒頭部分で注記しておくべきは、渡邊あゆみキャスターの「あらためまして」という開始のことばである。これは、この部分が第2部という位置付けになっていたからだ。12時20分から12時43分までの『生中継ふるさと一番!』という番組が第1部で、その終わりのところで渡邊が第2部の宣伝をかねてゲスト紹介をしていたという記憶がある。ちなみに、2006年4月からはそれぞれが別番組という扱いになっている⁵⁾。

『スタバ』も『部屋』と同じく、ゲストとホスト（『スタバ』では「キャスター」と呼んでいる）とのトークがメインである。その最後の部分は、視聴者からの質問にゲストが答えるコーナー、「暮らしの中のニュース解説」というゲストがお休みする部分、そして、エンディングは視聴者からのメッセージを紹介する部分からなっている。全体で54分間という長さだが、41分すぎからの13分間弱がこの部分となっている。そのうち「暮らしの中のニュース解説」が8分間なので、ゲストの「出演している」時間は全体で46分間ということになる⁶⁾。

質問コーナーが始まるまでの、メインとなるトーク部分は、大きく3部に分

表3 武田鉄矢『スタジオパークからこんにちは』構成表 (06年01月12日(木)放送)

| 開始分秒 | テロップなど | 写真(P)とVTR | 変となる発話 |
|-------|-------------------------|-----------|--|
| 00:01 | 開始 | | あらためまして、スタジオパークからこんにちは |
| 00:28 | 鉄矢登場；水仙娘 | | どうぞ、お入りください。 |
| 02:05 | 「質問・メッセージ募集」 | | 【スタジオへ移動する】 |
| 03:02 | 「2歳のころ」 | P：アアップ | きょうは、俳優の武田鉄矢さんをお迎えいたしました。 |
| 03:34 | 「小学生のころ」 | P：森の石松 | けっこう、面倒見のいい |
| 04:22 | 「中学生のころ」 | P：坊主頭 | 柔道部にはいつていたそうで |
| 04:35 | 「高校生のころ」 | P：制服姿 | 無我夢中で柔道やってたんじゃないですかね。 |
| 05:14 | 目立ってもいいかな | | 当時はどうでした。もてるタイプのご様子で。 |
| 06:01 | 老け顔は得か | | あんだ、何年ぶつとどうと聞かれたことありましたね。 |
| 08:49 | コンプレックスのかたまり | | 高校3年生のときに『龍馬がゆく』ってのを読んだんですよ。 |
| 08:12 | 「武田鉄矢3つのキーワード」 | | こういうキーワードで、ちよつとつづってみたいと思うんですが |
| 08:29 | 「海援隊 デビューのころ」 | ボード | この海援隊、デビューはすんなりと |
| 09:31 | 読む証文としてのバラード | P：長髪 | 1年だけやらしてくれて、母親との約束でしたから、 |
| 11:08 | 「海援隊 (初出場)」 | V：紅白歌合戦 | 【第25回紅白歌合戦 (1974年)】 |
| 11:56 | 母の反応 | | 異様な顔してますねえ |
| 12:25 | 「母・イクさん」 | ボード | 舞台にするほどあります。みなさん、ぜひ、見に来てくださいね。 |
| 12:37 | 舞台写真 | P：豆腐売りの母役 | 【舞台『母に捧げるバラード』(2002年)】 |
| 13:09 | 「母イクさん」 | P：母親と鉄矢 | 縫い物やって、たばこ屋やって、将校のメイド |
| 13:34 | 「有名になった母」 | | 兄が言った、さびしいギヤグをいまでも覚えてますよ。 |
| 14:48 | 「幸せの黄色いハンカチ」 | P：映画場面 | 【高倉健と桃井かおりと3人で】 |
| 15:59 | 「金八先生」 | | それ以外、金八先生と呼ばれるようになって |
| 16:03 | 「3年B組金八先生第1シリーズ(1979年)」 | P：金八先生役 | さいしよの、杉田かおるさんたちなんて、もう、私たちとも、同世代ですから。 |
| 16:12 | 「3年B組金八先生第7シリーズ(2004年)」 | P：金八先生役 | だから、先生も25年なさってるって。 |
| 16:35 | こんどの功名が辻 | | これも因縁でねえ、みなさん、ちよつと聞いてください。なかなかおもしろい話をしますんで。 |
| 17:20 | 配役図 | ボード | そういえば、こういう役ですもんね。 |
| 18:32 | 「武田鉄矢流功名が辻の楽しみ方」 | VTR | おもしろいですよ。今年の大河は。 |
| 19:21 | 「まじめで律義な男」 | | 【山内一豊】；「かしこく」；「美しい」；「奏・千代」 |
| 22:44 | 仕えているひとは | ボード | ここで次のポイントは、 |
| 23:04 | 改革者 | VTR | 「戦国時代」；「カリスマ」；「織田信長」；「猿とよばれた男」；「人たらし」；「豊臣秀吉」 |
| 24:08 | 信長軍の旗 | 番組の一場面 | いまで言うところ、IT関連の人ですよ |

| | | | | |
|-------|---------------------|---------|--|--|
| 25:14 | 千代が亭主を操る | | | |
| 25:58 | 五藤吉兵衛と祖父江新右衛門 | ボード | | |
| 26:17 | 「痛快名コンビ!」 | V：登場場面 | | |
| 29:40 | 五藤さんのお屋敷 | | | |
| 30:20 | なるべく殿や千代の芝居が際立つように | | | |
| 31:20 | 「祖父江新右衛門役前田吟さん」 | V：メッセージ | | |
| 32:30 | がんばりましょう | | | |
| 33:08 | 「命」 | ボード | | |
| 34:07 | かつこ良く、死んでください。 | | | |
| 35:08 | 思えば悪くへきなものだ | 観覧席風景 | | |
| 35:25 | 「渡辺あゆみの蔵出しトーク」 | アニメ映像 | | |
| 35:55 | 絵を描いてリラックス | | | |
| | スケッチブック中の絵 | | | |
| 40:18 | | | | |
| 41:13 | 「もっと聞きたいスタバでQ?」 | | | |
| 44:00 | 「暮らしの中のニュース解説」 | | | |
| 52:15 | 「質問・メッセージ受付は終了しました」 | | | |
| 52:30 | メッセージ紹介 | 色紙 | | |
| 54:00 | 終了 | | | |

でも、その裏かわでは、ゆっくりやっぱ、仲間さん演じる千代が、しかし、その山内一豊に、もう忠義の、まあ家臣だった、この2人

「大河ドラマ功名が辻第3回（1月22日放送予定）」

すいません。だんだん、なんか、よくわかんなくなってきました。

さあ、それで、このふたりのせりふだっというふうに、あのう、名コンビですから、このせりふはおれのせりふだっただけ、武田さんが言ったほうがいいんじゃないか

あうんの呼吸が楽しめるですね。

総括して、テーマは。

だってね。子孫のひとつで、不思議なこと言いますよね。

武田鉄矢さんへの質問・メッセージ、お待ちしています。

画材です。これは、武田さんがお使いのものですか。

スケッチブック

「左手；足；顔；はおずき；山古志；女性の肉体；阿修羅像」

たくさん描きたいものがどんどん出てくる

「身体のために；チャレンジしたいこと；願いがかなうとしたら；座右の銘」

豪雪の被害と気候変動 山崎登解説委員

いちおう、顔をかいておきます。

えー、座間市のxxxさんという方（全5つ）

けることができる。鉄矢のプロフィール、大河ドラマ『功名が辻』のエピソード、そして、鉄矢の趣味の絵描きについて、である。このうち、3つめのコーナーには「渡邊あゆみの蔵出しトーク」という名前がついている。後藤はいなくなって、渡邊との一対一のやりとりとなっている。このあとの「暮らしの中のニュース解説」では解説委員の聞き手を後藤が務めるため、それに備えているのかとも思われる。

スタジオ内での配置を説明しておこう。中央に応接セット風の、やや低めの円卓がある。正面から見て、その右側にゲスト用の2人掛けソファ、左側に1人掛けの肘掛け椅子が2脚置かれている。ソファの右側にワゴンタイプの物置があり、鉄矢は着席するときこの上に水仙の花束を置いた。円卓の奥には丸い台がある。ボードが置かれるものだ。キャスターは左側の肘掛け椅子に座るが、中央より渡邊、左側に後藤が座る。VTR が流されることがあるが、そのディスプレイは画面からは見えない⁷⁾。

断片1 ゲスト登場時の紹介 (00:20-00:28)⁸⁾

- 01 後藤： → ゲスト、ご紹介しましょう。今月ようから
- 02 → 始まっています。大河ドラマ、功名が辻ご出演の、
- 03 → 武田、((ここで画面右を向く))
- 04 → ((お辞儀をしながら) 鉄矢さんです。
- 05 渡邊： どうぞ、((画面右を向く))
- 06 ((右手で後藤との間の画面中央を指しながら))
- 07 おはいいください。
- 08 鉄矢： ど：も。
- 09 一同： ((拍手))
- 10 鉄矢： ((画面右袖より中央へ入ってくる))

鉄矢が『功名が辻』で重要な役を演じているというのが、この日のゲストとなっている最大の理由である。2006年は1月8日が日曜日で、大河ドラマ『功名が辻』の初回の放送があった。山内一豊の妻千代がドラマの主役だが、その準主役にあたる一豊の「忠義の家臣」、五藤吉兵衛を鉄矢が演じている。1月12日の木曜日という出演日はドラマの初回放送から4日後であり、メインのトーク部分の2つめがこの話題に割かれている。そのことは、ゲスト紹介の部分

にもはっきりと表現されている（断片1）。キャスターの2人が画面中央に並んで立っているところへ、ゲストの武田鉄矢が入ってくる部分である。後藤が「大河ドラマ『功名が辻』ご出演の武田鉄矢さんです」と紹介している（01-04行）。その大河ドラマが「今月の8日から始まっています」というふうに、大河ドラマの「宣伝」であるとはっきりわかる。

実際、表3に見られるように、16分35秒から35分08秒のまえまで約18分間がドラマ『功名が辻』の話題に割かれている。登場人物の紹介的な配役図、番組宣伝のVTR、そして、共演者の前田吟からのメッセージVTRとさまざまな形式でドラマを紹介している。そのなかで、鉄矢にはこのドラマの「武田鉄矢流の楽しみ方」を「教授する」ということが求められている（断片2の03-04;06行）。

断片2 講師としての鉄矢（18:16-18:29）

- 01 渡邊： いまちょっとあのう、こうして見ていただいてる
 02 人物：のなかで、.hh きょうはですね。この功名が
 03 → 辻の、武田さん流の、楽しみ方を、あたくしたちに、
 04 → ご教[授]いただこ：]
 05 鉄矢： [聞いてください。]
 06 渡邊： → と思いま[す]。
 07 鉄矢： [おもしろいですよ、今年の大河は。]

この部分では、キャスターは鉄矢のことを「先生」と呼ぶことがあった。これは、鉄矢が『3年B組金八先生』という人気テレビドラマシリーズの主人公教師役を演じているということもあるだろう。それに加えて、歴史が好きで知識が豊富ということもあるのだろう。鉄矢はもともとはシンガーソングライターで「海援隊」というバンドのリーダーだった。これは、幕末の土佐脱藩浪士坂本龍馬が長崎で結成した組織の名称である。この日の番組でも述べられていたが、坂本龍馬の大ファンである鉄矢は幕末史に詳しい。龍馬時代に土佐藩の実権を握っていた山内容堂の先祖にあたる山内一豊の家臣役には心理的に抵抗があったということも紹介している。

3-2 鉄矢のプロフィール

3-1では、番組の構成を述べつつその特徴を紹介してきた。本項で取り上げたいのは、トークの最初の部分である。そこでは、生い立ちというか「プロフィール」が語られている。ふつうよく写真も紹介されるところだが、鉄矢のときは、「2歳のころ」、「小学生のころ」、「中学生のころ」、「高校生のころ」と4枚の白黒写真が映し出された。そのころはどんな子どもだったのかといった話題が語られることになる。

ちなみに、この話題は番組初登場のときに限られるのかもしれないと調べてみたところ、ウェブ上での検索の結果、2002年4月30日にも鉄矢はスタパに出演していた。そのときのウェブサイトを見ると、海援隊の3人が写っている(<http://www.nhk.or.jp/park/guest/guest03.html#> より)。そのときには、ひとりひとりのプロフィールをあまり詳細に紹介しなかったということがあるのかもしれないが、番組そのものを見ていないので推測の域を出ない。

生い立ちの「プロフィール」紹介に続いて、08分12秒から、「芸能人」としての活動が話題となる。ボードに鉄矢の顔写真と、「武田鉄矢3つのキーワード」とあり、「海援隊」、「母・イクさん」、「金八先生」と書かれたものを渡邊がとりだす。「こういうキーワードでつづってみたいと思うんですが、まずやっぱり海援隊ですよええ」と言いながら渡邊は3つのキーワードを導入している。

海援隊というフォークグループは、『母に捧げるバラード』という曲で大ヒットし、それで1974年に紅白歌合戦に出演している。博多で活動していた海援隊が上京して歌手デビューし、大ヒットにつながるまでの経緯がまず話題となる。そして、11分08秒から47秒間ほど、紅白初出場時のVTRが流れる。その後、渡邊は母親がこの曲についてどんなことを言ったかを話題にする。そして、12分25秒から「3つのキーワード」の2つめである「母・イクさん」へと移る。

断片3 「海援隊」から「母・イク」へ (12:21-12:38)

- 01 渡邊： ➡ もう、おかあさまの、このエピソードっていうのは、
02 [もういろいろ
03 鉄矢： [やまほどあります。

- 04 渡邊： ね：え？
05 鉄矢： 舞台にするほどありました。舞台にし、
06 渡邊： それで、舞台になったんですね。
07 鉄矢： そうです。
08 後藤： そうですよ。
09 渡邊： なんか今年もさ、また、
10 鉄矢： みなさん、ぜひ見に来てくださいね。
11 あ、母親イク、もう死んじゃったんですけど
12 やっぱ忘れがたいもんですから、
13 舞台にして＝
14 渡邊： ＝ええ＝
15 鉄矢： ➡ ＝こんどはパートツーなんですけど＝
16 渡邊： ➡ ＝ええ、続編ってことですか、

断片3がその転換点である。その直前には、『母に捧げるバラード』という曲にたいする母親のコメントが、発売直後とヒット後で激変したと鉄矢が話して、キャスター2人が大笑いをしている。そして、母親を題材とした舞台の話題が始まる(01行)。2002年に、ヒット曲と同じ『母に捧げるバラード』というタイトルの芝居をしている。鉄矢は主人公の母親役をしているが、15行から16行のあたりでその写真が映し出される。ラップを首からぶら下げた豆腐売り姿だが、その当時の母親のエピソードが紹介される。豆腐を売っていたときに自転車ごとひっくり返したことがある。そのときに、砂まじりの豆腐入りみそ汁を飲まされた。鉄矢の兄が、砂の粒を「石英」だ「玄武岩」だと言って、笑い話にしようとしたというのである。

ここで注意しておきたいのは、舞台は話題になっているものの、母親について語るための手段であって、舞台そのものが話題になっているのではないということだ。公共放送としてのNHKの方針の現れだろう。ただし、番組のホームページでは、この年の6月に行われる続編の舞台公演情報は掲載されている⁹⁾。

付録3は、14分47秒から15分58秒までの部分の発話を文字起こしたトランスクリプトである。『徹子の部屋』と「同じ話題」であると言い切ることができる箇所であり、比較のために詳細に見ておきたい。ここは、3つめのキーワ

ードである「金八先生」につながる導入部分と位置づけることができる。歌手だった鉄矢が「俳優デビュー」（付録3の03行）をしたときのことが話題となっている。山田洋次監督の『幸せの黄色いハンカチ』への出演依頼があったときの驚きと、撮影時の2人の大先輩俳優（「日本がほこる有名な俳優さんふたり」（15-16行））との交流が話題となっている。この部分の冒頭、付録3の01行の「でそれで燃えて」の直後あたりで画面は映画の1シーンが映し出される。高倉健と桃井かおり、鉄矢の3人が写っている。すぐに、テロップで「幸せの黄色いハンカチ（1977年） 監督：山田洋次・資料提供：松竹」と右下に出る。

この部分の特徴としてまず目につくのは、「インタビュー」という言葉から想起されるインタビューアーによる「質問」とインタヴューイの「回答」という「隣接対」(Schegloff 2007)が見当たらないということだ。鉄矢が「物語」というか、ほぼひとりで語り、それを2人のキャスターが聞くという形になっている。まず、出演依頼があって、共演する俳優がだれかを聞いたときの驚きについて（05-13行）。そして、2人にかわいがられたということ（15-24行）。ついで、高倉健と渥美清との具体的なエピソードがそれぞれ順番に語られる（26-29行と32-47行）。これらの4つのまとまりのうち、2つめから4つめのまとまりの最初の部分は鉄矢の発話から始まっている。「ぼくはこの作品で、日本がほこる有名な」（15行）、「健さんは、ぼくが山田監督の演出がきびしくて」（26行）、「っから渥美さんは、あの」（32行）といったものだ。この部分全体として、「俳優デビューもなさって」（03行）という渡邊の発話にたいする応答となっているといえよう。鉄矢による発話開始は、それまでの部分をキャスターが受けとめたところで行われている：「ね：：え、ほんとに」（渡邊の14行）、「へえ：：」（渡邊の25行）、「ふ：：：ん」（後藤の31行）。

2つめの特徴は、発話を鉄矢が再演していることだ。表4にそれを示すが、出演依頼時の山田監督（と想定される）とのやりとり（01-03行）と、映画撮影現場での渥美清とのやりとり（05-08行）である。以下に述べるように、再演とは口調を模倣したりして演じるものだが、表4にはそういったバラ言語的な特徴は表記していない。

表4 再演発話リスト2つ

- 01 山田： 映画に出てみないか？
 02 鉄矢： いっしょにやるのはだれですか？
 03 山田： 高倉健というひとだ。
 04
 05 鉄矢： あの、寅さん、寅さんとよばれて、
 06 渥美さんもたいへんですねえ。
 07 渥美： てっちゃん。あのね、役者がね、
 08 あの、役名で呼ばれるってなあ、名誉なことだよ。

再演 (replay) を定義しておこう。過去に発せられた発話を引用する場合には、いわゆる「直接引用」と「間接引用」を区別できる。これらの区別が文法的にはっきりしている例としては、英語の書き言葉が挙げられる。だが、話し言葉の場合は文体上ではその区別はあいまいとなる。その発話の仕方、つまり、パラ言語的要素が決め手となる。ここでは、想起・報告対象となっているオリジナルの場面における発話を模倣し演じている (play) と聞こえるので、再演と呼んでいる。ゴフマンのフッティング論文の用語を使えば、「アニメーター (animator)」ということになるだろう (Goffman 1981b: 144)。

もちろん、ゴフマンが指摘しているように、オリジナルそのままというわけではない (1974: 504=386)。

繰り返そう。物語や逸話、つまり、再演すること (replaying) は過去の出来事のなんらかの報告にすぎないというわけではない。真の意味で、それは、実際のあるいは潜在的な参加者という人としての視点から表現されている (couch) ような陳述なのだ。そしてその参加者は、報告される出来事の、ある時間的かつ劇的な展開がその出発点から進行するような位置に立っているのだ。それゆえに、再演することは、ついでに言うと、起こったことに聞き手が共感的に入り込み、想像的に (vicariously) 再体験することができるなにかとなるのだ。要するに、再演することは個人的経験を詳述する (recount) ものであって、単に、ある出来事を報告するものではないのだ。

一字一句そのままに引用されているということよりも、そういった趣旨のことが言われた。そして、それがそれらしく模倣、再演されているということだ。

この例でとくに顕著なのが、43-44行の「てっちゃん。(.) あだね、役者がね、あの、役名で呼ばれるってなあ、名誉なことだよ:」という発話を、鉄矢が渥美清の口まねをしながら演じているところだ。このような力のこもった再演は、発話まとまりの終わりを形づくるものとなりやすい。実際に、ここでもそうになっている。しかも、キャスターの渡邊は再演されている発話の内容が鉄矢にもあてはまると言って、話題を転換させている。つまり、鉄矢が「金八先生」という役名で呼ばれるようになったということだ。

「思い出」、過去のことを語るのに、ある特徴的な場面を描写するというやり方があるだろう。表4のような再演は、そのようなやり方のうちの重要なもののひとつだ。鉄矢が2回もこれを使っていること、しかも、それがインタビューからの働きかけなしに自発的に使われていること。これを、『母に捧げるバラード』から『3年 B 組金八先生』までの時期についての『スタジオパークからこんにちは』におけるトークの特徴として指摘することができる。

3-3 徹子の引きだし方

前項において、鉄矢が出演した『スタジオパークからこんにちは』の構成と特徴を見た。ここでは、同じ鉄矢がゲスト出演した『徹子の部屋』を取り上げる。とくに、付録3とほぼ「同じ」経験を語っている部分に照準して、その語り方、徹子の話の引きだし方の特徴を検討する。

まず、構成表(表2)をもとに番組全体の流れを確認しよう。この番組は2006年5月29日の月曜日に放送されている。『スタパ』の4ヶ月半後ということになる。徹子が画面に登場してから、最後の登場場面まで33分間あるが、その間に4回コマーシャルタイムが入る。2分間のものが2回と1分30秒間が2回、合計4回で7分間ということになる。残りの「本体」の時間は26分間ということになる。写真とVTRを取り混ぜるという演出は『スタパ』と共通している。

『スタパ』との大きな違いのひとつは、生放送ではない点だ。徹子は「一切編集をしないことにしたんです。生放送と同じようにや」っていると言っている(2005:8)が、「まったく同じ」とは思えない。とくに、画面右下に映し出されるテロップだが、収録後に入れているものと推測される。生番組のスタパではそういったことはできないだろう¹⁰⁾。

この日の番組冒頭で、徹子は「お芝居で、ご自分のおかあさまを、女形で演じていらっしゃるかたがきょうのお客さまです」と鉄矢を紹介している。つまり、舞台を中心的な話題とするということを宣言している。もちろん、その舞台の主人公である鉄矢の母親イクの人生を含めてのことである。番組中に流される2つのVTRのうちの1つは、4年前の舞台のときのものである。1分20秒にわたって、鉄矢演じる母親イクが「タワシ踊り」を踊る場面が映し出される。また、パート2にあたる続編が放送日翌週の6月4日から始まるが、その案内ポスターも映し出される。「ご成功祈ってますけど」というのが、最後の挨拶のまえの徹子の発話だった（断片10の37行）。

付録4が本項で注目する部分である。これは、開始から23分07秒から24分50秒までのところの発話を文字起こしたものだ。画面右下に「武田鉄矢/どん底支えた妻のひと言」というテロップが、22分51秒から出ている。その直前は、テレビ番組『3年B組金八先生』に初めて出演したのは29歳のときだったという話である。

この部分は、前項で取り上げた『スタジオパークからこんにちは』と同じく、鉄矢の人生において、海援隊の『母に捧げるバラード』の大ヒットから一転して貧乏生活となり、その後映画の『幸せの黄色いハンカチ』に出演するという、『金八先生』前までの時期が話題となっている。テロップにあるように「どん底支えた妻のひと言」と映画出演依頼の話とが話題となっている。前者が中心であることは、テロップのほかに、それを引きだすのに徹子が費やした努力にも見て取ることができる。

まず、金八先生という話題にすでに入っているのを、いちど時間の流れを引き戻す必要がある。付録4の01行で「そうですよ、でも、そのまえにまた」と言いながら徹子はそれをしている。そのときに「そのまえに」の「まえに」に強調が置かれている。これは、メイナードたちが「レトリックを演じること (performing the rhetoric)」と呼んだ、からだの動きを伴うもの (Maynard & Schaffer 2002: 230-) だ。メイナードたちは、アメリカの大学のサーヴェイリサーチセンターでの電話インタビュー時のインタビューアーのふるまいをビデオ録画して分析している。この研究では、過去に調査協力要請をして拒否された世帯への再電話を取り上げている。なんとか説得しようとするインタビューアーが、強調して発話するときに手を動かして「その強調を助け、

それによって表現力を高めて、受け手に対するレトリック上のアピールを生み出している」と述べている (Maynard & Schaeffer 2002: 235)。徹子の「まえに」という発話は、両手の動きと同期している。軽く胸の前に上げた両手をいちど右手に振ってから、それを「まえに」と言いながら左に両手をそろえながら平行移動させる。これは、話題となっている時点を引き戻すという視覚的なイメージと解釈することができる。この動作とともに、発話の音量が大きくなっている。

この連鎖のピークは、鉄矢の妻が「ここをよく見とこうね。ここがどん底だから。あとは上がるだけ」と言った言葉だ (46; 50; 52行)。それを引きだすために、徹子はそのときの状況を鉄矢と紡ぎだすことから取り掛かる。まず、「どん底」を描写するところから始まる。それは、「母に捧げるバラードでバーンて有名におなりになって」(03-04行)という、栄華の確認から始まる。この発話では「バーン」が強調されて発話されている。身ぶりとしても、ひざよりちょっと上で上向きにした両手を持ち上げるような動作をしている。なにかをひっくりかえしたときの身ぶりのようにも見えるものだ。ともあれ、このような身ぶりが伴うことで「バーン」が強調されている。

断片4 「どん底」の描写 (23:07-23:54)

- 08 鉄矢： =そうですね2年ぐらい仕事なくて：
 09 それで女房妊娠しちゃって：
 10 (.)
 11 徹子： でなんかお皿洗いかなんか [してたの
 12 鉄矢： [そうですスナックで=
 13 徹子： =原宿でね
 14 鉄矢： スナックの、あの：台所のほうで、.hhh
 15 ふたりでい：ん5千円もらうために
 16 (.) あの皿洗いをしたことが [あります
 17 徹子： ➡ [みなさん信じられますか
 18 ➡ 母に捧げるバラードがありだけヒットしたのに：
 19 .hhh そのあとなんだかお仕事がなくなっちゃって
 20 ➡ お皿洗いしてた。それで.hh 紅白歌合戦が始まるころ (.)
 21 鉄矢： ええ [ええ

- 22 徹子： ➡ [に：閉めて (.)]
 23 鉄矢： はい
 24 徹子： ➡ 初詣の人がくるときに (.) 帰る。
 25 鉄矢： はい。女房と [ふたりで、
 26 徹子： [お店を閉めて、うん。
 27 鉄矢： はい。でタクシー代がもったいないんで：
 28 妊娠何ヶ月 6ヶ月でしたけど
 29 徹子： [うん
 30 鉄矢： [女房といっしょに、.hhhhh やっぱあいのう：：
 31 除夜の鐘の鳴る夜をね：＝
 32 徹子： ＝うん

その後の「どん底」ぶりは、妻が妊娠してお金がなくて、2人で「5千円」をもらうためにスナックで皿洗いの仕事をしたという状況で特定される。それを、徹子は「みなさん信じられますか。母に捧げるバラードがありだっけヒットしたのに」(17-18行)という、良い時との対比でコントラストを強めて視聴者に直接問いかけ、訴えている。とりわけ、「紅白歌合戦が始まるころに閉めて」(20;22行)、「初詣での人がくるときに帰る」(24行)という部分がポイントだ。この番組では触れられていないが、海援隊は『母に捧げるバラード』で大晦日の紅白歌合戦に出場している。歌手としては最高のひのき舞台に立った人間が、数年後にはその時間帯に皿洗いの仕事をしているという対比だ。この対比は視覚的にも強調される。19行から28行のやりとりが行われているあいだ、画面には『母に捧げるバラード』のシングルレコードのジャケットが映し出されているのだ。

断片5 「どん底支えた妻のひと言」(23:54-24:14)

- 33 鉄矢： ➡ ふたりで歩いた思い出ってゆうのは
 34 徹子： ➡ でそのときあなたの奥様は>な：んでひとの話を
 35 ➡ こんなよくおぼえて [るのかしら<
 36 鉄矢： ➡ [((哄笑))
 37 徹子： ➡ あなたの奥様が：
 38 鉄矢： ➡ >いいこといっぱいある [んですけど<

- 39 徹子： → [これ以上悪くはならない
 40 → [わねと
 41 鉄矢： → [は：い
 42 徹子： >おっしゃったんじゃない(.)
 43 → [そうじゃありません?<
 44 鉄矢： [はいはい。
 45 徹子： うん。
 46 鉄矢： あの、ここをよく見とこ：ねって
 47 突然ゆうもんです [からねえ
 48 徹子： [ん：
 49 鉄矢： なんでだ：ていったら
 50 いや、ここがどん底だからってゆう
 51 徹子： ふ：ん。
 52 鉄矢： もう、あとは上がるだけってゆう
 53 徹子： ね：↑え
 54 鉄矢： ええ

徹子のリードにのって、鉄矢はそのときのことを語る。それで、「ふたりで歩いた思い出ってゆうのは」(33行)とまとめるような発話をしたところで、徹子は言わせたいせりふを言ってみせる。「あなたの奥様がこれ以上悪くはならないわねとおっしゃったじゃない」(37; 39; 40; 42行)と言って「は：い」と鉄矢が答えると(41行)、「そうじゃありません?」(43行)とさらに「追い討ち」をかける。それで、ようやく鉄矢が再演を始めることになる。表5は、再演されたやりとりをわかりやすく示したものだ。

表5 「妻のひと言」の再演

- 01 妻： ここをよくみとこうね。
 02 鉄矢： なんでだ?
 03 妻： いや、ここがどん底だから。もう、あとは上がるだけ。

歌の大ヒットと紅白歌合戦出場という栄光と、皿洗いの仕事からタクシー代節約のために妊娠6ヶ月の妻と除夜の鐘を聞きながら歩いて帰るという「どん

底」の対比、そのときに語られた言葉という、まさに「どん底支えた妻の一言」がこのようにして引き出されている¹¹⁾。

これがスムーズなものでなかったということは、そこまですにかかった徹子の努力に見られるのみならず、「な：んでひとの話をこんなよくおぼえてるのかしら」(34-35行)と徹子が自己言及的に発話しているところにも見て取ることができるだろう。これには鉄矢も大笑いで応じて(36行)、「いいこといっぱいあるんですけど」(38行)と早口で挿入的に発話するというこもしている。そうして、ようやくなを言わせたいのかわかったという理解を示していると言うことができるだろう。つまり、「いいこといっぱいあって、そちらを話すこともできるんだけど、徹子さん、あなたはわたしに、あの妻の一言を再演させたいのですね」と解釈できるようなものだ。

ここまでの部分では、明示的な質問形は使われていない。これは前項で取り上げた『スタバ』の部分と共通している。2つの番組の最大の違いは、徹子がすでに聞いた話、知っていること(既知情報)をうまく使おうとしており、そのことが見て取れるということだ。この部分の最初となる、「ほ：んとに仕事がないってお話ここでしてくださったじゃない」(06-07行)という発話、そして、「でそのときあなたの奥様は」と始めて「な：んでひとの話をこんなよくおぼえてるのかしら」と自己言及発話をしながらも再演を示唆したところ(34-35行)、そして、3つめとしては、59行の拍手を上げることができる。

「どん底支えた妻の一言」をようやく引きだした徹子は、金八先生の話題に行こうとする(断片6の55行)。それを、鉄矢は「あっ、黄色いハンカチが来るんですよ」と修正している(56-57行)。鉄矢は「あっ」というマーカーで驚きを標識して、「正しい」流れを提示する。これを徹子も「あっ、黄色いハンカチが来たんだ、山田洋次さんの」と受諾している(58-60行)。しかも、「黄色いハンカチが」の直後に手を打ち鳴らしているようだ。「パン」という音が聞こえ(59行)、その直前部分の映像は鉄矢アップのバストショットなのだが、その端っこを手らしきものが横切るのが見える。徹子が手を打ち鳴らそうと動かしているところだと思われる。この拍手は、覚えているべきものを忘れていて、それを思いだしたということを表示するものと解釈できる。つまり、徹子は自分が知っているべきだったという認識を示したというわけだ。62行の「そう」の5連発も、この修復作業の一貫と考えられる。また、この後の部分

は83行まで2人の重複発話が多いが、それも、鉄矢の大きなターニングポイントである映画初出演依頼の話題をすっ飛ばしたことへの徹子の「焦り」が影響していると考えられるかもしれない。

断片6 黄色いハンカチ出演依頼 (24:14-24:50)

- 55 徹子： → そのあと金八先生 (.) にな [ったわけ
56 鉄矢： → [あっ、黄色いハンカチが
57 → 来るんですよ。
58 徹子： → あっ、黄色いハンカチが [来たんだ、山田洋次
59 → [パン ((手を叩く音))
60 → [さんの。
61 鉄矢： [も：う、
62 徹子： → [そ：そ：そ：そ：そ
63 鉄矢： [ほん、そ、その話しをして、(.) にさん週間で
64 黄色いハンカチのお話しが来るんです
65 徹子： ん：：
66 鉄矢： もうそれはもう、ほんとに、ゆめのようでしたね=
67 徹子： =映画ですもんねえ=
68 鉄矢： = [映画で
69 徹子： = [主演級の役ですからね。
70 鉄矢： しっかもトップバッターで
71 主演の人は高倉 [健
72 徹子： [しかも高倉健さん (.) と
73 [ごいっしょ
74 鉄矢： [ぼくね、渥美清さんのまえに名前があったんですよ。
75 徹子： (.) (あ、[そう)
76 鉄矢： [それがね、売れない自分にとってどれほど
77 奇跡のような仕事か：
78 徹子： ね：： [え
79 鉄矢： [え：え：
80 徹子： それで：金八先生になって
8 鉄矢： [そうです
82 徹子： [いくわけです [よねえ：
83 鉄矢： [はい

- 84 (.)
85 徹子： まあねえ：
86 鉄矢： でも ((音声カット))

徹子個人の記憶力、あるいは、徹子個人の体験に基づく記録がトーク内容の基盤にあるのをここに見てとることができる。それは、32年間休まずにホステスを務めてきたこと、そして、過去の映像を活用していることとも関係しているだろう。ちなみに、この放送をさかのぼる27年前の1979年に鉄矢は『徹子の部屋』に初出演しており、この日の番組でもそのときのVTRがちょうど1分間流される(09:23-10:22)。『スタパ』では見られない演出である。1979年は『金八先生』が始まって、「どん底」を抜け出した時期だと思われる。残念ながら、「どん底支えた妻のひと言」がこのときの番組で語られたかどうかは不明である。

3-4 『スタジオパークからこんにちは』 vs. 『徹子の部屋』

これまで見てきたように、鉄矢の芸能生活の一時期、『母に捧げるバラード』の大ヒット後から『3年B組金八先生』での大ブレイクまでの期間についての2つのトークを見てきた。「どん底」と『幸せの黄色いハンカチ』出演というトピックがあった。スタパでは「どん底」は話題とされなかったのにたいして、徹子はこれを焦点にしていた。しかも、引き出したい発話を明瞭に設定して、それがうまく引きだせるように、そして、それが出てきたときには連鎖の山場、おちとなるようにと工夫されているようすがうかがえた。

2つの番組に共通していたのは、少なくとも照準した部分では、明示的な質問形式は使われていなかったことだ。とくに、『スタパ』では鉄矢が「ストーリーテリング」をしていたとでも言えるほどに、自発的に話していた。また、どちらにおいても、鉄矢は再演をしていたが、『スタパ』における渥美清の再演がいちばん凝ったものだった。これは、鉄矢自身が大切にしている「思い出」ということも関係しているのかもしれない。

2つの番組の比較点として、さらに2点を指摘しておきたい。まず、ホストの年齢である。ウィキペディアによると、黒柳徹子は1933年生まれとある。「テレビ誕生とともに生まれた日本初のテレビタレント」と評されているが、

芸能界の事情には詳しい。それに対して、『スタパ』の渡邊あゆみは1960年生まれ、後藤理は1974年生まれとある。1949年生まれの鉄矢より10歳以上若い。そのために、『スタパ』で鉄矢が坂本龍馬を主人公とした NHK 大河ドラマの『竜馬がゆく』を熱烈に語ろうとしたときも、見た記憶がないためにうまく合わせるができなかった(断片7)。「あ、タイトルバック、ねっ」(03;05行)と言われても、その画面を見た記憶のない2人には応答のしようがない。確認したことはないが、徹子ならば鉄矢が言及しているタイトル場面を見ており、適切な受け答えができたであろうと推測することができる。

断片7 大河ドラマ『竜馬がゆく』(07:37-07:46)

- 01 鉄矢： だからもう、むちゅうで見たの覚えてますよねえ：
 02 竜馬がゆく
 03 → あのタイトルバック、
 04 渡邊： → は：
 05 鉄矢： → ねっ。
 06 渡邊： でも、それ以来、じゃ、もう竜馬ですか。
 07 鉄矢： → (.) そ：です。
 08 渡邊： ねえ：
 09 鉄矢： ず：：と竜馬です。

この部分で、鉄矢は熱っぽく語っている。引いた映像で3人全員をカメラが捉えているため、「あ、タイトルバック」(03行)と言ったときに鉄矢が身を乗り出しているのがわかる。それを、あまり力のない「は：」(04行)で渡邊に受けとめられて、鉄矢は「ねっ」(05行)とさらに熱い同意を求めるような要請を行う。それにたいして「でも、それ以来、じゃ、もう竜馬ですか」とこれも冷静に対応されて、ちょっとあてが外れたのだろうか。鉄矢の「そ：です」という応答のまえにマイクロポーズが生じている(07行)。04行の「は：」を「あまり力のない」と形容したが、「気の抜けた」というほどではない。だが、鉄矢の熱っぽさには不釣り合いなものと、少なくとも鉄矢には感じられたようだ。このやりとりのあいだ、もうひとりのキャスターである後藤が2人を

「心配そうに」見ていて、やりとりに加わらなかったという点も指摘しておきたい。

もうひとつ、2つの番組で違うのではないかとと思われるのは、以下のようなやりとりだ（断片8）。ここでは、鉄矢の母親イクの生活が描かれている。5人の子どもを抱えて家族のためによく働いたという話である。そこで、「あさ5時起きで豆腐売りにいった」（01-02行）と鉄矢が報告したのになんて、それよりさらに早起きして豆腐作りもしていたのかと渡邊はたずねている（04行）。これは間違いであるために、マイクロポーズ後に鉄矢による修復を引きだすことになる（05; 07行）。渡邊も自分の理解の不適切さに気づいたのか、小声で「売る」と発話している（06行）。豆腐はよそで作って、母親はそれを仕入れて売っていたということを理解したと受けとめをしているのが、渡邊ではなく後藤のほうである（08行）という点は注意しておきたい。

断片8 「それ以前からお豆腐をつくって？」（12:55-13:07）

- 01 鉄矢： ➡ あさ5時おきでね .hhh
 02 ➡ 豆腐売りにいったんですよ。
 03 (.)
 04 渡邊： ➡ てゆうことはそれ以前からお豆腐をつくって？
 05 鉄矢： ➡ (.) あいやいや。あの、豆腐をおろしてもらって
 06 渡邊： ➡ [売る
 07 鉄矢： ➡ [自転車に積んで、ちかくの団地に売 [りに行って
 08 後藤： ➡ [あ：：：]

このような「勘違い」は、徹子にはあまり見られないということが推測される。断片6の59行の拍手はこれに類するミスがあったことに対する反応と言えるのかもしれない。渡邊のおかしたミスは、イクの人生をよく知っていれば、エッセイ『母に捧げるバラード』（武田 1992）を読んでいると、NHK ドラマ『こら！なんばしよと』シリーズを見ていれば、あるいは舞台『母に捧げるバラード』を見ていれば、しなかったような「愚問」なのかもしれないと思われるが、今後の検討を要する点だ。

本項、そして本節の結びとして、2つの番組の最後の部分を対比しておこう。

断片9 「功名が辻、ごらんくださいね」(53:48-53:53)

- 01 渡邊： え：、きょうは
 02 武田鉄矢さんで「した。
 03 後藤： 「ありがとうございました。
 04 渡邊： ➡ 功名が辻、ごらんくださいね。
 05 鉄矢： ➡ どうぞ、ごらんくださ：い。
 06 後藤： あすのゲストは吉行和子さんです。

断片9は『スタパ』の終わりのところである。渡邊は「功名が辻、ごらんくださいね」と大河ドラマ『功名が辻』の宣伝で締めくくっている(04行)。鉄矢も「どうぞ、ごらんくださ：い」と応じている(05行)。この日の主題がはっきりと繰り返されている。

断片10 「おやりになるんですって」(32:13-32:59)

- 01 徹子： ➡ なんかこんどおかあさまが亡くなるまで
 02 ➡ おやりになるん：ですって＝
 03 鉄矢： ＝はいっ＝
 04 徹子： ＝ん
 05 武田： こんどは：あのう (.)
 06 ((画面に舞台のポスターが映し出される))
 07 あのう娘たちが踊る、
 08 たわし踊りに送られて。
 09 徹子： huhu あ、ほんとに＝
 10 鉄矢： ＝はいこんどは。はは「が、
 11 徹子： ➡ 「でも、あなたずいぶんお顔が
 12 ➡ おかあさまのように品がいい顔になってます
 13 ➡ 「ねずいぶんまえにくらべると。
 14 鉄矢： [hhhhh
 15 徹子： (.) あれなんなんでしょうあれ、
 16 かつらのせいもあるかもしれないですけど
 17 (.) ねえ？＝
 18 鉄矢： ＝いやあ、でも：やっぱり似てきますよ：
 19 徹子： あ「やっぱりお顔が似てらっしゃんのかしら「ね：え
 20 鉄矢： 「え：。 「え：：

- 21 徹子： ➡ (1.0) でも、どうでしょうねおかあさま
 22 ➡ これ見てらしたらあなたの： (.) その
 23 (1.2)
 24 鉄矢： そう [ですね：
 25 徹子： [おかあさまをやら
 26 鉄矢： あの：劇場のどっかで見てると思うんですけど
 27 きつとよこんでくれてると思って。
 28 (.)
 29 徹子： [そ：ですね：
 30 鉄矢： [はい。父の分までがんばって
 31 [やろうと思います。
 32 徹子： [まあ
 33 ➡ 親孝行ですよね=
 34 鉄矢： =はい。ありがとう [ございます。
 35 徹子： [hhhほんとにね。
 36 鉄矢： hhh
 37 徹子： ➡ どうも、ご成功祈ってますけど hh
 38 ➡ お嬢様たちにもよろしくおっしゃってください。
 39 鉄矢： はい。どうもありがとうございます。
 40 徹子： どうも、ほんと：にあーとうございました。
 41 ((拍手))

断片10に見られるように、舞台『母に捧げるラストバラード』が締めくくりの話題となっている。そのポスターを見ながらの会話となっている。ひとつ注目したいのは、「なんかこんどおかあさまが亡くなるまでおやりになるんですって」という01-02行の発話だ。

黒柳：とにかく出来たもので勝負。生放送と同じです。編集はしないということを原則にしています。そこで、面白い話をしていただくためには、私が説明をして、「これこれのことがあったそうですが、どうでしたか？」とお聞きすることもあるわけです。

永江：黒柳さんがゲストに「xx だったんですってね」と、かいつまんで説明してから質問をなさる、あそこのところが私はとても好きです。

黒柳：そうですか。ときどき言い過ぎかなと思うことがあるんですけど。できることならばあまり私が説明しないで、「そこを左に曲がったら面白いことがあるんですけど？」と私が言ってゲストのお話が出ればもっと面白いと思います。それと、ゲストの方の性格もありますよね。ていねいに説明しないとそこまで到達しない方と、いきなり話のできる方と。その方によって違うので、それはその方を見て判断します。

(黒柳 2005:9-10)

フリーライターの永江朗が徹子にインタビューした内容をまとめた文章がある(黒柳 2005)。永江は、「ですって」という言い方を徹子のインタビュー術の特徴ととらえ、好きなところだと言っている。これに徹子が答えている部分だ。ほかのところで、「話を飛ばす」ということについて説明している。「いちいち細かく聞いていたのでは時間が足りません。下調べで分っていれば、視聴者の方には私の口から説明して、話を飛ばせますから」(黒柳 2005:8)と言っている。「ですって」が「話を飛ばす」技法そのものだと断言してはいないが、いくつかある技法のひとつだと考えられる。

そうだとすると、「なんかこんどおかあさまが亡くなるころまでおやりになるんですって」(断片10の01-02行)によってなにが「飛ばされて」、どんな話が出るのが期待されていたのだろうか。これによって、舞台のあらすじ、少なくともカバーする母の人生の期間はわかる。その直前まで鉄矢の愛用品という別の話題をしていたことを考えると、エンディングの始まりであると考えるのが適切かもしれない。

舞台のポスターを見て、母親に扮している鉄矢の容貌についてのコメントがある。「あなたずいぶん顔が、おかあさまのように品がいい顔になってますね」(11-13行)。そして、母親の思いがどんなものだろうと問いかけて(21-22行)、親孝行だとほめている(33行)。ほめられた鉄矢は礼を言い(34行)、徹子が「ご成功祈ってますけど」と締めくくりの言葉を発する(37行)。最後に別れのあいさつとなるが、番組冒頭に話題とした鉄矢の娘たちによるしくと言う(38行)。このあたりの発話は徹子ならではものだろう。芸能界歴が長く、何人かの芸能人とは親しくつきあっている徹子だからこそその話題、話し方だと思われる。

4 太腿の触り方：岡崎朋美

前節では、言わせたい再演セリフにまで焦点を絞って、それを引きだそうとする徹子の戦術を見た。本節では、トーク番組ホステスとしての徹子の力量を示す別の比較を提示する。それは、スピードスケートの岡崎朋美選手をゲストとした回である。表1で示したように、『スタジオパークからこんにちは』の放送が2006年3月9日でキャスターは鉄矢のときと同じく渡邊あゆみと後藤理だった。その約1ヶ月後の4月5日に『徹子の部屋』の放送となっている。

岡崎朋美はスピードスケート短距離の選手である。1998年の長野五輪で女子500メートルで3位に入り銅メダルを獲得した。ソルトレークシティ五輪で6位、2006年2月のトリノ五輪では4位入賞となった。日本選手団の主将も務めている。五輪後オランダのワールドカップに転戦しており、帰国したのは3月9日放送の『スタパ』の2日前だった。岡崎は、女子スピードスケートで2人目のオリンピックメダリストであり、「朋美スマイル」と呼ばれて人気がある。2006年元旦の『スタジオパークからおめでとう』では、練習中の長野のスケートリンクから岡崎が生出演したようだ。

本節では、岡崎朋美の太腿の触り方を比較する。短距離のスケート選手は太腿の筋肉がその速度を生み出す原「動力」であり、よく話題となる。ここで取り上げる『スタパ』も『部屋』も、岡崎の太腿を話題とし、ホステスがそれに触っている。その場面を対比することにした。

4-1 岡崎『スタジオパークからこんにちは』

3月9日の木曜日に生放送された。上述したように、ゲストの岡崎朋美はトリノ五輪で4位に入賞したあとオランダでのワールドカップを経て、帰国してすぐである。500メートルスピードスケートは、2回すべて合計タイムの速いほうから順位が決まる。その2つのレースを含めて4回のオリンピック時のVTRを織り交ぜての構成となっている。

まず、冒頭にトリノ五輪1本目のレースのVTRが流される。3位となったものである。その後、岡崎本人が番組に登場する。このときの映し方は、ほかのゲストのときと変わっている。ゲストを紹介する位置にすでに立っている岡崎を、カメラが足下から引き上げていって映すという撮り方である。ジーンズ

姿の岡崎の太腿を強調しようという演出であるとも考えることができる。観客の声援に答えながらスタジオへと移動して、トークが始まるというのは鉄矢のときと同じである。35分すぎまで、生い立ちと選手生活の話となる。その後、「渡邊あゆみの蔵出しトーク」コーナーでは「趣味」の話となる。オートバイと富士登山について話がなされる。質問コーナーがあって、「暮らしの中のニュース解説」と続く。そして色紙を見せることになるが、鉄矢のときと違うのは、生で映っているときに「サイン」という演出である。最後は、視聴者からのファックスを紹介して終了となる。

付録5は、19分53秒から21分15秒までの部分である。高校を卒業して富士急行に入社した岡崎だが、富士急行スケート部の監督からスカウトされたときの経緯が語られる。高校2年生のときに、北海道の釧路で全日本選手権があり、そこで初めて富士急行スケート部の監督と橋本聖子に会ったと説明して、「出会ったんですけども」と繰り返しているところが01行である。そこで、トレーニングウェア姿の岡崎と橋本、長田監督の写っている写真がテレビ画面いっぱいに映し出される。

初の出会いで「スカウト」されたのかと渡邊が聞く（13行）。「そうですね」と肯定して（14行）から、「太ももってゆうんですか。あしがすごく発達してる子を発見したということですかがされたんですよね」（18-20;22行）と、「スカウト」のされ方を岡崎が説明する。スピードスケートのスカウトのしかたとしてはユニークなのだろうか。何度か語ったことがあるエピソードなのだろうか。これに、渡邊は「太ももの張り具合」と確認するように応じるが、かなり強調して発話している（23行）。20行から笑いながらの発話となっている岡崎が「はい」と答えたところで画面は岡崎の太腿を映し出す。カメラが上へ動きだしたところで、渡邊が「ちょっと触ってもいいですか」とたずねる（34行）。

岡崎はそれほど間をおかずに「ああ、どうぞどうぞ」と許諾している（35行）。ここで、「後藤が触ると問題でしょうけど、あたくしが触るんだったらねえ」（36;38行）と渡邊は言っているが、これには後藤が応じざるを得ない。笑い声で「いやいやいやいや、そんなことはできません」と答えている（37;39;41行）。そのために、立って右手を伸ばした渡邊は後藤のほうを振り向く（42行）。

そのような「攪乱要因」があるからか、触るという活動までにちょっと交錯

がある。MPEG Streamclip というソフトウェアで1秒間に30フレームまでを表示させて見ると、渡邊が最初に立ち上がるのは20:31,14Fである。渡邊の「あたくしが触るんだったらねえ」の「ねえ」にかぶさるように岡崎が「はい」と答えている直後である。20:32,09Fには上に立つ動きは止まる。その10フレーム前の20:31,28Fから、渡邊は頭を右側に向ける。後藤が「そんなことはできません」(39;41行)と発話した直後である。

そしてすぐに右手を伸ばして座っている岡崎の太腿に触ろうと身を乗り出すが届かない。そのためだろうか。再度、右側の後藤に顔を向けて、「たしかお正月のときに：」と話しかける(44行)。元旦の放送について言及しているものと思われる。そうしておいて、腰を下ろす動きを始める。20:34,16Fからである。この部分は、20:33,00Fから映像は渡邊のアップとなっている。そのために、岡崎の動きはよくわからない。だが、座る動きを始めて、顔を岡崎のほうへと向けた渡邊に応じるかのように岡崎が立ち上がる。20:35,04Fで画面右側に岡崎の頭のはしっこが見えだす。渡邊が座り岡崎が立つという動きの最中の20:35,19Fに画面が3人全体を映すワイドとなる。そして、20:35,20Fに腰を下ろした渡邊はすぐさま立ち上がる動きに転じる。20:37,04Fでようやく太腿を触り・触られるという態勢がようやく整う。「どっちが太いんでしたっけ」(49行)という質問は、触る態勢になって左右どちらの太腿に触ろうかというところである。この直後、20:38,23Fから画面はアップとなり、両手が添えられた岡崎の両太腿、そして、触ろうと伸びている渡邊の左手の映像となる。岡崎の「えっと」(50行)は、画面が太腿のアップになってから発せられている。

この問いにたいして、「こっちのほうが」と岡崎が左腿を指さしながら、半歩ほど渡邊側に踏み出す(51行)。渡邊の手が届くように、触りやすくするようにという配慮だろう。するとすぐに渡邊が左手で触る。親指と人さし指・中指・薬指とで軽くはさむように押さえるという感じだろうか。触って一呼吸置いてから55行の「あ：：」が発せられている。まさに、ゴフマンのいう「レスポンスクライ」だろうか。(Goffman 1981a)。

「あ：：すっごい」というレスポンスクライは発したものの(55;57行)、後藤に「わたしにもわかるように教えてください」と言われて(58;60行)、渡邊は困ってしまう。それで、「あの：：いやこれ」とワードサーチをしながら

(62;64行)、再度左手で岡崎の太腿を触る。そして、「なにを基準」にするかが問題だが(66-67行)、「あたくしの太ももよりはるかにこうピンとしてる」と表現する(69;71行)。ようやくことばを見つけたという印象だ。岡崎が「張ってますよね」と形容して(73行)、それに救われたとばかりに「張ってますよね」と繰り返している(74行)。

ここまでの触っている場面では、岡崎の太腿のアップと画面左手からのカメラの映像が交互に映されていたが、このあと20:59,15Fに中央からの3人が映るワイド画面に切り替わる。「合うジーンズってたいへんじゃないですか」(77-78行)と言いながら、渡邊が座っているところだ。そして、「そう、たいへんですね」(79-80行)と言いながら、岡崎も腰を下ろす。先に座った渡邊は、岡崎が腰を下ろして腰かけなおすタイミングで自分も腰を浮かして座り直す。岡崎が85行の「はい」と発話するところだ(21:05,07F)。そして、「とにかく」と太腿が話題となった文脈に戻すような発話で(87行)、ようやくこの部分を終結させて、富士急行入社の経緯という本題に話を戻している。

次項の徹子の取り上げ方と比べるとはっきりするが、やや中途半端という印象である。まず、後藤を話題にしたがために、焦点がぼやけることになっている。後藤が反応し渡邊がそれに対応してそちらに顔を向けたので、岡崎が立ち上がるタイミングを逸している。渡邊はいったん立ち上がったものの腰を下ろして、再度立ち上がるということになっている。

また、物理的配置にもやや無理がある。武田鉄矢のときと同じように、ゲストとキャスターは大きな丸い応接テーブルをはさんで座っている。画面に向かって右側にゲスト、左側に渡邊と後藤が並んでいる。ゲストの岡崎と渡邊の間は1メートルぐらい空いているだろうか。円卓の奥にボードなどを載せるための小さな丸台があり、そのあいだを通り抜けるということはできない。椅子から立ち上がって渡邊は上半身を乗り出して、触るということにならざるを得ない。前もって、どのような配置で触るのかということまでは考えられてはいなかったと推測される¹²⁾。

準備不足は、太腿を描写することばがすぐに出てこないという事態にもつながっている。後藤が座っている一方、女性2人が立って話すということになるが、これもちょっと不自然な映像となっている。左側のカメラからの映像に切り替えているが、その不自然さを和らげるためとも推測される。「その太もも

の張りに監督はほれた」という結びも(87;89行)、「でとにかく」という言葉が必要となっている。やや強引に話をまとめている印象を与える。

さらに、徹子なら問わずもがなと思われる質問を付録5の中から指摘しておこう。「あ、この3人が出会ったってことですか？」(06行)、「ひょっとすると、スカウトってゆうことですか」(13行)、「どっちが太いんでしたっけ」(49行)といった質問は、あまり情報量はない。徹子なら「話を飛ばす」ところではないかと思われるものだ。

4-2 太腿の話題化と笑い

スケート選手としてスカウトされたきっかけとして太腿を話題とした『スタジオパークからこんにちは』にたいして、徹子は「時速50キロ」をキーワードとする。ゲスト紹介の冒頭部分を断片11として示す。

断片11 岡崎『徹子の部屋』冒頭(00:43-01:12)

- 01 徹子： ➡ すごいです。スピードスケートの選手でいらっしゃい
 02 ➡ ます。トリノでは、残念ながら4位だったんですけど
 03 ➡ これはもうにほんじゅうが悔しがりました。 .hhh まあ
 04 ➡ おきれいでいらっしゃることも有名ですけど今回は、
 05 ➡ .hh 日本選手団の主将としていらっしゃいました。
 06 ➡ .hh 女性が主将なのは、あ：2回目だそうです。
 07 岡崎： ((うなずく))
 08 徹子： 岡崎朋美さんきょうのお客さまです。(.)
 09 よくいらしてくださいました。=
 10 岡崎： =よろしく願いいたします。
 11 徹子： ➡ なにしる時速、え：50キロとゆうスピードで、
 12 ➡ 自動車だって50キロ出したら、.hh もうスピード
 13 ➡ 違反でつかまるところもあるぐらいですからね。
 14 岡崎： はい。
 15 徹子： よろしく願いしま：す。
 16 岡崎： よろしく願いいたします。

番組開始時の30秒のコマーシャル後の15秒間はトリノ五輪の500メートルの2本目が放送される。断片11はその直後の部分だ。レース終了後に観客席に向か

って手を振っている映像が、03行の「これはもう」のところで、すでに着席している岡崎に画面が切り替わる。徹子と2人を映しながらのオープニングである。「スケートの選手」、「トリノでは4位」、「おきれい」、「日本選手団の主将」と最初の部分で特徴を列挙する(01-06行)。そして、「時速50キロ」という点が強調される(11-13行)。

『部屋』では、トリノ五輪とスピードが中心的な話題となっている。岡崎がスピードが好きで、ジェットコースターや速い乗り物が好きだという話がコーナー後の最初になされる。時速50キロで滑っているときの感覚も語られる。日本選手団の主将としての責務、入場行進のVTR(06:14,14F-06:37,27F)、2本目のレースとレース後のインタビューのVTRと続く(06:37,29F-07:55,15F)。100分の5秒差で銅メダルを逃したが、距離にすると65センチの差だとか、トリノでは風邪をひいていたとか。上位はロシアと中国だったが、国としての強化策の違いといった話題が続く。

長野五輪で銅メダルを取ったレースのVTRも流れる(12:35,19F-13:17,11F)。8年前は若かったという話からおしゃれの話題となり、手の爪の装飾も映される。そして、太腿の話題となるのが15分06秒である。付録6は、16分13秒までの1分間ちよっとの部分である。この部分前半では、座っている岡崎の太腿を2回カメラがアップで映しだす。

断片12 太腿の話題化(15:06-15:18)

- 01 徹子： さっきからあたし気になってんですけどあなたの
 02 → やっぱり太ももってというのが [みんなね。
 03 岡崎： → [huhuhu
 04 はい。
 05 徹子： → あのう、((パチと自分の右太腿を叩く))
 06 → いい [太ももって ((パチと再度)) hhhhh
 07 岡崎： [hhhhhh
 08 徹子： [¥ほら言われている [じゃない
 09 岡崎： [hhh [¥は：い
 10 [そうですね¥
 11 徹子： → [それでね。ん：ん：¥
 12 やっぱりあれなんですってその太ももの太さも：

この部分で特徴的なのは、いわゆる笑いと笑いながらの発話である。まず、太腿を話題にするということについての「違和感」からだろうか、断片12の03行で岡崎が「ウフフ」という笑いをする。微子は、02行で「太もも」を話題にしたあと、自分の右の太腿を2回叩く（05-06行）。そして、そのあと、笑いだしている。その間、岡崎はずっと「照れ笑い」をしている。その「気詰まり」を振り払うかのように「それでね」と言い、ひとりで納得するように「ん：ん：」と言ったところで（11行）笑い声をやめて、12行からは普通の声で話している。偶然のことかもしれないが、08行の「ほら」から岡崎の太腿がアップで映しだされる。これが15:12,16Fなのだが、15:15,10Fからだんだんズームでワイドになりだす。このズームの動きが始まるのは、岡崎の10行「そうですね」という発話である。太腿を話題とすることの提案と受諾とも言えるやりとりは、画面上でも可視化されているとも言える。

断片13 いまの太腿（15:49-15:59）

- 35 微子： ➡ =いまはそうすると、どうゆうー
 36 (0.8)
 37 微子： [()]
 38 岡崎： ➡ [いまはもう (.) フリー。フリーというか
 39 ➡ もう [休みなので：=
 40 微子： ➡ [huhuh
 41 微子： ➡ =どうでもいいような？=
 42 岡崎： ➡ = huhuhuh [そう。
 43 微子： [どうでもいいってことはない。
 44 岡崎： [もう
 45 微子： ➡ [で：。その失礼ですよあなたの筋肉に対してね

2 回目に笑いが見られるのが断片13の部分である。ここでは、微子が40行で先に笑い、それに岡崎が追隨しているように見える（42行）。この部分では、現時点での太腿の状態を「いまはそうすると、どうゆう」とたずねたのだが（35行）、岡崎からの回答がすぐには来なかった。そして、笑顔で「いまはもうフリー。フリーというかももう休みなので」（38-39行）と発話したのに応じるように、微子の40行の笑いがある。そして、「どうでもいいような」という回答

候補を提示するが(41行)、それがおかしいかのように岡崎が笑いながら肯定する(42行)。徹子が「失礼ですね」(45行)と自己言及しているのは、直接的には「どうでもいい」ということば(41行)かと思われるが、このことばが引き起こした笑い交換も含めてのものとも言えよう。

断片14 「筋肉が落ちてると柔らかくなる」(16:01-16:13)

- 50 徹子： =柔らかくなるのそ[うすると。
 51 岡崎： [なりますね。
 52 徹子： あそう[ですか。
 53 岡崎： → [筋肉がおちてるので hhhhh
 54 徹子： あっ筋肉が落ちてると柔らかくなる？
 55 岡崎： なりますね。
 56 徹子： ん：：[：
 57 岡崎： [はい。ですね=
 58 徹子： → =なるほどね hh [hhhh
 59 岡崎： → [huhuhuhu
 60 徹子： ま(.)あのちょっとあとでもうちょっと詳しく
 61 おみあし()それからきょうはあの(.)

次に笑いが生じるのが断片14の53行の岡崎の発話である。「筋肉が落ちてるので」と言ってすぐに笑うが、これはいわゆる「照れ笑い」と言うのだろうか。自分の言っていること・状態が好ましくないのはわかっていますよと言わんばかりのものだ。これには、徹子は追随しない。そして、この部分の締めくくりとなる58行で徹子が笑っている。「なるほどね」と岡崎の説明に「納得」を示したあとのところだ。これには、岡崎が笑いで追随している(59行)。だからこそ、次の話題への転換となる発話を60行で徹子が発することができたと言えることができるかもしれない。

この部分では、身ぶりも目につく。19行(付録6)の岡崎の「パンと張ってる」の「パン」は強調されているが、両手を自分の右太腿のまわりに置いて太さを強調するような動きをしながら発話されている。その後、34行の「ちょっと細くなる」というところまで、間断的に両手で太腿の太さを示すような動きがなされる。夏場のウェイトトレーニングで「いっぱいいっぱい」に作った筋

肉が、シーズン中に滑り込むことでスケートに「ちょうどいい」筋肉となり細くなっていくというのである。

もうひとつ指摘しておきたいのは、聞き手である徹子の身ぶりだ。冒頭の太腿を話題とするところで自分の右太腿を叩いたほかに、自分の両太腿のやや外側を両手で前後にさするという動きを2回している。1回目が、「すごい柔らかくなってますね：」という岡崎の発話のところ（47行）、徹子の発話としては「その失礼ですよね。あなたの筋肉に対して」（断片13の45行）の後である。「柔らかくなるの。そうすると」と言いながら、この動きは繰り返される。ケンドン言うところの「ミラーリング」（Kendon 1990, 1970）かとも思われるが、直前に岡崎は類似の動きはしていない。「柔らかい」と言う岡崎の発話を受けて、自分の太腿の固さを確認しているかのようだ。後の触る場面で、岡崎の太腿を叩いたあと徹子は自分の腿を叩いているが、そのことと関係があるのかもしれない。

4-3 徹子の叩き方

さて、付録7が、徹子が岡崎の太腿を実際に触る部分のトランスクリプトである。付録6の部分のあと、スケートのブレードカバーを話題にしてコマーシャルとなる。コマーシャル後の19分14秒からは「時速50Kmを生む秘密兵器」というテロップが出て、スケートとレーシングスーツの紹介がある。スケートのブレードの薄さ・鋭さ、スラップのバネの硬さ、ウェアの薄さが話される。その途中に23分39秒から25分09秒にコマーシャルがはさまり、そして26分56秒から再び太腿の話題となる。

付録7は、動作も書き込んだ。この場面では合計28回も、徹子は岡崎の左腿を叩いている。対比するように自分の腿も8回ほど叩いている。そのほかにも腿をさする動きもしており、そのすべてを詳細にトランスクリプトに盛り込むことには限界があることは断っておきたい。

『スタパ』では、渡邊キャスターが身を乗り出して約13秒のあいだに5回ほど「触れた」だけだったのにたいして、『部屋』ではたつぷりと時間をかけている。まず、付録6の部分で、夏場とスケートシーズンでの太腿の太さの変化が話された。太ければ太いほど良いというわけではなく、スケートに「ちょうどいい」という筋肉の状態があるとのことだった。そして、シーズンが終わっ

て「休み」となっている『部屋』収録時点では、「柔らかくなって」いるということだった。

そして、いよいよ「触る」ことになるわけだが、その態勢づくりのやりとりがまずある。断片15の13-30行がその部分だが、3つに分けることができる。まず、触ることの許諾（13-18行）、つぎに、触る・触られる態勢づくり（19-27行）、そして、態勢が出来てからの触っていいかどうかの再確認だ（28-30行）。

断片15 触る態勢づくり（27:08-27:16）

- 13 徹子： → ちょっと、触らせていただいていいですか＝
 14 岡崎： → [あ、はい。
 15 徹子： → =女性だからいいかな。
 16 岡崎： → ((立ち上がろうと体の両脇でソファに手をつく))
 17 → はい。
 18 徹子： → い↑：い
 19 → ((岡崎よりソファの右端に移動しながら)) ちょっと
 20 じゃあちょっとええ、ちよつ、
 21 岡崎： → ((腰を浮かして少し徹子によってまた下ろす))
 22 → あ
 23 徹子： いいです(か)？
 24 ((座ってる岡崎の右腿の上に両手を起きかける))
 25 >すみませんちよつとお立ちになって
 26 [いただいて [いいですか。
 27 岡崎： → [hhhhhh [((立ち上がる))
 28 徹子： → .hhh すみませんけどちょっと触らせていいですか、
 29 (.)
 30 徹子： いいで [すか？<

最初に「触らせていただいていいですか」(13行)と触る許可を徹子が求めたのにたいして、それを岡崎が許諾する。岡崎は「あ、はい」と即答しているのだが(14行)、徹子は「女性だからいいかな」と13行に続けて発話している。それで、すでに触られる準備として立ち上がるなり、徹子より座るなりしようとしているところなのだが、再度岡崎は「はい」と発話する(17行)。徹子

の「い↑：い」という発話（18行）は「再確認」ということになるだろうか。

最終的に岡崎は立つことになるのだが（27行）、徹子の動きにちょっと戸惑ったのだろうか。徹子はソファから立ち上がらずに、右に移動する。肘掛けに腰掛けるかたちになる。16行の動きはただ左手をソファについただけだったが、19行では両手をついて少し腰を浮かす。だがまた腰を下ろしてしまう（21行）。22行の「あ」や27行の笑いは、立ち上がりかけて座って、けっきょく立つことになるというこの間のやりとりの生み出したものだと考えられる。この間、徹子はかなり早口でしゃべっている。この「ミスコミュニケーション」を反映しているとも言える。28行の「すいません」、「ちょっと触らして」、「いいですか」と3つの文が途切れなく続いているものと聞けることができる。とくに、「ちょっと触らして（いただいてもいいですか）」が完結せずに「いいですか」が発せられているのは特徴的だ¹³⁾。

断片16 「いい音みなさん」（27:16-27:29）

- 30 徹子： いいで [すか？<
 31 岡崎： ➡ [あ、いまちょっと柔らかい
 32 ➡ [かも
 33 徹子： [((パンと叩く))
 34 岡崎： ➡ [しれないですね：。
 35 徹子： [((パンパンパンパンパンと続けて合計5回叩く))
 36 徹子： ああでもね： ((最後のパンパンがこの箇所))
 37 岡崎： ➡ [hhhhh
 38 徹子： ➡ [い：hhh おとみなさん
 39 観客： ➡ ((笑い))
 40 徹子： ➡ こんな音って！
 41 ➡ ((パンパンと5回速いテンポで叩く))
 42 岡崎： [いまちょっとねいま
 43 徹子： [なるほどねこの足 ((上下にさすりながら))
 44 ((右手で左太腿を軽くつかみながら下げていく))
 45 ➡ やっぱりここが [いちばん
 46 岡崎： [は：：い
 47 徹子： ➡ (.) あれ [ですよ：
 48 岡崎： [そうですね

- 49 徹子： ((左太腿側面をさするように下げながら))
 50 → 「よく出来てますね .h ええ
 51 岡崎： → 「あとこの ((左手で左太腿の裏側をなでおろす))
 52 → うらさんがけっこうすごい

「触ってもいいですか」となんども確認している徹子だが、実際には「叩いて」いる。それが断片16の部分である。両手で岡崎の左腿を軽く触ってから、すぐに右手で叩きだす。「いまちょっと柔らかいかも」の「かも」のあたりからである(32行)。左側を2回叩いてから前側を3回叩く。この3回がとりわけ高い「いい音」(38行)がする。岡崎が笑いで応じて(37行)、観客からも反応がある(39行)。「こんな音」と「音」を強調して(40行)、さらに5回叩く(41行)。その後上下にさするが、全体として「触る」というよりも、「叩いて音を聞かせる」といった観がある。

「やっぱりここがいちばん」(45行)の「ここ」は、腿の表側の付け根のあたりである。ただ、「いちばん」に「あれですよ」と続けており(47行)、太腿の適切な言語描写は出てきていない。「よく出来てますね」(50行)というのがその代わりだろうか。

岡崎は、「いま」の太腿の状態、とりわけその「柔らかさ」を気にしているようだ。「いまちょっと柔らかいかもしれないですね：」(31;32;34行)と言い、「いまちょっとねいま」と42行ではそれを繰り返している。「いちばん調子のいいとき」の太さと、いまの太さを対比するやりとりがこの部分の最初に交わされているが(付録7の03-12行)、「柔らかさ」は、「パンって張ってる」(付録6の19行)状態ではないということなのだろう。

岡崎は賞賛の対象となっていると言える(Pomerantz 1978)。賞賛に対して、謙遜的な拒否ではなく、受容的な同意をしている。シーズン中の「いちばん調子のいいとき」はもっとすごいと言わんばかりだ。そして、太腿の前と横を叩いたりさすったりする徹子にたいし、「あとこの裏筋がすごい」と言っている(51-52行)。これ以後は概略だけ述べるに留めるが、徹子は裏も合計13回叩く。そして、形容する表現としては、岡崎が言った「すごい」と「張っている」を繰り返す。対比として自分の太腿を持ち出し、「ウニュウニュ」・「グニュグニュ」だと言って叩いてみせる¹⁴⁾。「響きが悪い」という表現もしている。岡

崎のは「いい筋肉」が「ついて」いるというわけだ。

「速さの秘密はここにアリ!？」というテロップの部分だったが、この話題が終わるところで（付録7の174行）コマーシャルとなっている。スケートとレーシングスーツに続いて、太腿とでこのトピックが完結する。実際に触るのに2分、それ以前にも1分ちょっと、合計3分あまりが太腿という話題に費やされている。笑いが織り混ざるような微妙な話題を、スピードスケートという主題の枠内でうまく処理して、視聴者に飽きや嫌みを感じさせないものとなっている。「速さの秘密はここにアリ!？」というテロップに見合うものが提示されていると満足できる番組となっている。

5 徹子が黙ったとき：山瀬まみ

前節まで、武田鉄矢と岡崎朋美をゲストとする『スタジオパークからこんにちは』と『徹子の部屋』の「同じ話題」の部分を取り上げた。鉄矢の場合は「同じ話題」と言ったものの重点の置き所が異なり、またゲストである鉄矢が「話し上手」なこともあるのだろうか、ある意味甲乙つけがたかった。一方、岡崎の太腿の「触り方」では『部屋』のほうが圧倒的な説得力を示していた。徹子のホストとしての力量を感じさせるものだった。

だが、つねに徹子の力量が生きてはかぎらない。最後にその対比が見られるものを見ておこう。それは、山瀬まみをゲストとする放送である。ここで取り上げる比較では、これまでの2人のゲストと異なり、『部屋』のほうが先の放送となっている。3月3日と10月25日なので、7ヶ月半以上も間隔が空いている。それでも「同じ話題」が見られている。山瀬がデザインした「部屋着」である。

5-1 徹子が黙ったとき

『徹子の部屋』に出演したときの山瀬まみは、自分がデザインした「部屋着」を着ていた。「お話がおもしろい方で」、「いろいろつぎつぎとおもしろいこと考え出すかたで、あとでみなさんにお目にかけますけど、山瀬式、なんか働き着のデザインとか」をしていると冒頭で紹介される。

山瀬は、『部屋』制作のテレビ朝日と同じ系列の朝日放送の『新婚さんい

っしゃい!』の司会者桂三枝のパートナーを務めている。そういった話や桃の節句の話題から、結婚と家庭生活の話となる。精米機を活用して、お米の味にこだわって堪能しているといった料理好きの面が長く話題となる。そして、山瀬がデザインした部屋着が話題となっているのが付録8である。テロップには「こんな部屋着が欲しかった」と出ている。

スタジオには、山瀬が着用しているもののほかに2着、山瀬デザインの部屋着が展示されていた。まず、着用しているものが話題となる。ちょっとした外出もできる「かわいい」ものというねらいであり、それを実践するように部屋着で『徹子の部屋』に来たというわけだ。かわいさに加えて、家事を考えての機能性とリラックスできる着心地とが売り物だ。

付録8は、マネキンに着せている2着目を話題にしている部分である。「これがいちばん作りたかったものなんですけど」(02-03行)と山瀬は言っている。「家事をするのにうってつけ」(06行)とのことで、機能性をとりわけ特徴としているものだ。それは、「ワンピース」のように見えるが、裾をズボンのようにまとめることができる。「スカート」の前後がボタンで留められているのだが、それを外して左右で筒状に留め直すことができる。徹子が「スカートだったのが急におズボンになりました」(82行)と総括しているが、まさにその通りだ。

断片17 徹子が黙ったとき (27:20-27:37)

- 24 山瀬： ➡ これ ((正面裾下のボタンを外す))
 25 ➡ ボタンなってる (1.4)
 26 うしろとまえをね。
 27 徹子： ん=
 28 山瀬： =ボタンを外して：=
 29 徹子： =え：
 30 山瀬： ➡ ((後ろ側のボタンを外す：3.0))
 31 ((椅子から立ち上がってしゃがむ))
 32 ((正面の裾を掴む))
 33 ここを留め直すと：=
 34 徹子： =え：
 35 山瀬： ズボンになるんですよ。

- 36 微子： おお：：。
- 37 (.) え？そこおっちゃうってゆう感じねちょっとね。
- 38 山瀬： そうです [ね。

断片17に「スカートをズボンに」する場面のやりとりを示した。ここで目につくのは、25行と30行の1.4秒と3.0秒の「間」である。「間」と呼んだものの、これは、話者交代の間とは言いがたい。どちらも、山瀬が服をいじっている作業中に生じている。山瀬の発話中の「山瀬の」ものである。微子は話そうと思えば話すことはできるだろうが、無理に話さなくても「不自然」とはならない。

だが、それでも、「話を飛ばす」ということをしてでも多くの「おもしろい話」をゲストから引きだすことをねらいとしている『微子の部屋』としては、微子が「黙ったとき」と位置づけることができる。それは、次項で見る『スタジオパークからこんにちは』と比較したときにはっきりする。『スタバ』ではスタジオに服の現物を持ち込むことをせずに、写真で代用している。「スカート」スタイルと「ズボン」スタイルの写真を用意することで、『部屋』で生じたようなスタイル変更の間がなくなっている。

時間がかかるスタイル変更をスタジオで実演したがために、「微子が黙る」ことになったと言えるだろう。ただ、それだけではないかもしれない。この日の微子にはちょっとおかしいところが感じられた。冒頭ではちょっと声がかすれていた。体調がすぐれなかったということもあるのかもしれない。

このことと関係があるのか、2人の話す調子がかみ合わないと感じさせるところがあった。ひとつは、「部屋着」ではなく、微子が一貫して「働き着」あるいは「ハウスウェア」と言っていたところだ。また、「遊びにいっても、しゅうとが壁にモップをかけていた」と山瀬が言ったのにたいして、どこに遊びに行ったときの事実と微子は聞いている。山瀬が夫の実家、すなわちしゅうとの家「遊び」に行ったときということなのだが、話の流れからは普通なら勘違いするようなものとは思えない。ぎゃくに、山瀬が微子の言葉尻を捉えて反応する箇所がいくつか見られ、そういったことも関係しているのかもしれない。指摘しておく。

5-2 写真の利点

2006年10月25日の水曜日に生放送された『スタジオパークからこんにちは』に山瀬まみが出演した。水曜日は、夜の8時から同じNHK 総合放送で『ためしてガッテン』が放送される。芸能生活20周年の山瀬だが、『ためしてガッテン』には1995年の初回放送以来ずっと出演している。歌手としてデビューした芸能活動初期の話題などが前半では紹介される。なお、キャスターは有働由美子と小川浩司アナウンサーへと2006年4月から交代している。

18分56秒から33分47秒まで「ここがききたい」というコーナーが始まる¹⁵⁾。この日は「山瀬まみの衣食住」という「お題」になっている。そして、その最初が「衣：家の中でこそおしゃれしたい！」であり、山瀬が「デザインにもかかわられ」た「お洋服」が紹介される。『徹子の部屋』でいちばんいていねいに紹介したもの(付録8)を着用している山瀬の写真がディスプレイに映し出される。

断片18 「こうなるんです」(22:06-22:26)

- 01 山瀬： .hhh でこれもっとすごいのは：
 02 有働： はい
 03 山瀬： ((写真の裾を右手で指しながら))
 04 これ：下にチェックの部分があってこれにまい：
 05 じたてになってるんですけど：＝
 06 有働： は [い
 07 小川： [はい
 08 山瀬： ((正面の真ん中を指して上下に動かす))
 09 .hhh ここね：－まえもうしろもぜんぶボタンで：＝
 10 有働： ＝はい。
 11 山瀬： ボタンをぜんぶ
 12 ((両手を広げて外す身ぶりをしながら)) はずして：
 13 有働： はい。
 14 山瀬： ((その身ぶりをしながら)) 前後でとめ直すと：＝
 15 有働： ＝ [はい
 16 山瀬： [なんとパンツになるんですよ。(.)
 17 有働： [パンツになる。[はい。
 18 山瀬： [ながが：

- 19 小川： [は：： [：
 20 山瀬： [で：
 21 [たとえば
 22 有働： → [(そうすると)
 23 ((2.0：写真が切り替わる))
 24 山瀬： こうなるんでhす hhhhhh
 25 有働： あ：あ
 26 山瀬： たとえば中に：
 27 有働： >なるほど<

『スタパ』では写真の切り替えで、スタイル変更が示されている。変更前と変更後の写真が映し出される。画像の切り替えを待つ間が2秒ちょうどである(23行)。どのように変更するかは、写真を指しながら手ぶりで示している。そのおかげか、この部分が全体として20秒間におさまっている。『徹子の部屋』のように現物を使って変更を実演してみせることで、服そのもののイメージはわかりやすいが、それにかかる時間を考えるとトーク番組で取り上げるやり方としては、写真のほうが適切だったと言えよう。

『徹子の部屋』の取り上げ方が失敗だとまでいうつもりはないが、トークのリズムは悪くなっている。早口で「おしゃべり」というイメージのある徹子のことだからなおさらのことなのかもしれない。実物での実演と、写真の切り替えですませることとの差だと言える。つまり、いくら話術に優れているといっても、状況が許さなければ話せないということも起こり得る。「おしゃべりだと決めつけ」られて「残念な思いをした」という徹子だが(黒柳 2005:14)、「おしゃべり」はある「人の属性」ではなくて、状況・場面の構成する「特性」であることを示す好例だと言えよう。

6 結 び

同じゲストが出演する2つのトーク番組、『徹子の部屋』と『スタジオパークからこんにちは』を取り上げ、同じゲストの「同じ話題」が取り上げられている部分を対比した。武田鉄矢の出演するものでは「同じ思い出」が見られた。その部分では、『スタパ』でも『部屋』でも鉄矢は再演をしていた。過去

の出来事を語るやり方として、臨場感があり、体験者としての信憑性と迫真性を生み出すものだ。そのうち、『部屋』ではホステスの徹子の要請に応じて「どん底を支えた妻のひと言」が再演された。一方、『スタバ』ではキャスターからの引きだしがなく、自発的に山田監督や渥美清とのやりとりが再演されていた。

徹子のうまさがい際立っていたのが、スピードスケートの岡崎朋美選手の太腿の「触り方」だった。『スタバ』の渡邊キャスターはちょっと「なでた」という感じだった。適切な表現がなかなか出てこず、もうひとりのキャスターの後藤を話題としたこともあって、わざわざ太腿に「触った」ことの意義が視聴者にうまく伝わったとは思えない。対照的に、徹子は入念にたっぷり時間をかけて触っていた。「触る」と言うよりも、「叩いた」と言うべきものだった。繰り返して「叩い」てまずその音を聞いた。その流れで、腿の裏側の筋肉も「すごい」という発言も引きだしている。そして、徹子はさらに「裏筋」も叩く。その「すごさ」を際立たせるために、徹子は自分の太腿と比較する。自分の太腿を触って叩いて、岡崎のものが「いい筋肉」だと示している。

事前の「下調べ」（黒柳 2005）と徹子の記憶力、芸能界での経験と年齢とが、焦点の絞られたやりとりを生み出している要因だと考えられる。話題の自由度、徹子に許されている裁量権も大きいだろう。編集はしないという基本方針ながら、「いざとなれば」編集が可能な録画番組であるという点もあるだろう。だが、そのような徹子でも、話せない、「黙る」ことを余儀なくされることがある。ゲストがなにかの作業をしながら発話しているようなときだ。山瀬まみが自分でデザインした部屋着を紹介しているときに、そういった場面が見られた。洋服のスタイルを変更している「間」は、徹子も「沈黙」せざるをえなかった。「おしゃべり」という特性は、個人の属性ではなくて、場面によって構成されるものと考えるべき重要な事例である。

このように比較してみると、時間的順序が後の放送のほうがそれぞれの話題についての取り上げ方が優れていると感じられた。先に放送された「ライバル」番組を研究している成果だろうか。ぎゃくに言うと、その話題がすでにメディアで取り上げられたものであるからこそ、新しい演出上の工夫が必要とされている面があるのかもしれない。つまり、武田鉄矢のファンがオリジナルの放送を見たときに受けた印象は、本論文が行ったように、同時期に突き合わせ

で詳細を検討するという比較から推定される「効果」とはまた別のものなのかもしれない。

「思い出」研究としては、鉄矢の部分のみが直接関係するものだった。鉄矢の『スタジオパークからこんにちは』の紹介で示したように、「プロフィール」を詳しく紹介するという形式は、ほかのゲストのときにも共通していた。苦労していた時期や転機が話題となることが多いが、再演を交えてのエピソードの語りはそういった話題においても、うまく使われると効果をもつものとなりそうだ。今後の調査によって実りある知見が期待される分野である。

注

- 1) 本研究は、2005-2007年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「縦断追跡調査におけるインタビューの構築主義的視角からの検討」(課題番号：17530387)による研究成果の一部である。データ収集にあたっては、成城大学特別研究費の助成も受けた。また、もととなった分析を行った「マスコミ基礎演習」履修者に感謝する。分析の一部を、成城大学経験研究会(2007年1月18日)において報告し、議論から得るところが多かった。英文アブストラクトは Dr. Cleridy Lennert のチェックを受けた。記して感謝したい。
- 2) 当初は「インタビュー番組」であると考えていた。ニュースインタビューを会話分析した Clayman & Heritage (2002) を応用したいと考えていた。だが、すこし分析を進めてみると、これらのトーク番組とニュースインタビューはかなり性格の異なるものだ気づいた。そのために、直接の応用・比較は本論では行っていない。
- 3) 「マスコミ研究法 B」という授業で、「トランスクリプトの作成と談話分析」という課題を出してきた。この授業では、まず最初のプロジェクトとして学生は「趣味」というトピックで1時間ほどの調査インタビューを行う。つぎに、インタビュー内容を「モノログ」形式の語りにまとめる(「モノログ」については、永江 2002:150を参照)。最後に、インタビューのうちの1分前後の部分を選びだしてトランスクリプトを作成し、各発話の意味するところを詳細に書き出して分析する。「詳細な書き出し」というときに南の念頭にあったのはガーフィンケルが学生に出した課題である (Garfinkel 1967: 38-39)。この課題においては、実際に発話されたことを左側に書き、その右側に発話について当事者が理解したことを書くということが求められた。南は右側に書かれるべき「理解」を、「詳細な書き出し」と呼ぶことにしている。

ちなみに、「マスコミ研究法 B」履修者を対象に実施した自記式質問紙調査によると、「トランスクリプトの作成と談話分析」というこの課題に学生は合計で10時間以上かけていた。1999年後期の履修者のうちの回答者約20人の平均で643分、2000年前期の履修のうちの約20人の平均所要時間は726分ということだった（南2000）。マスコミ基礎演習という授業になってからは、課題所要時間を調査したことではない。いずれにしても、この課題が学生の印象に深く残るものであることだけは間違いない。授業の感想をたずねると、かならず話題に上る。ただ残念ながら、これに関心をもって卒業論文で相互作用分析調査をする学生はほとんどいないということは何言しておくべきだろう。

- 4) ちなみに、ウィンドウズ用としては、**SndPlay** というフリーソフトが有名で広く使われている。ただし、映像ファイルはウィンドウズ **XP** 標準の状態では視聴することができないようだ。
- 5) 番組の変遷については、**Wikipedia** の『スタジオパークからこんにちは』、『お昼ですよ！ふれあいホール』、『生中継ふるさと一番！』のページを参照した（2007年12月アクセス）。余談だが、南はお昼の時間帯に **NHK** をよく見ているのだが、**NHK** らしからぬ『お昼ですよ！ふれあいホール』に不満を抱いていた。『ひるどき日本列島』を踏襲する『生中継ふるさと一番！』の登場に安堵した覚えがある。
- 6) **NHK** の番組ホームページには、放送直後にその番組についてのページがアップされる。ゲストのプロフィールと顔写真、キャスターと3人で写っている写真、色紙、「武田鉄矢さん情報」が掲載されている。色紙は、「暮らしの中のニュース解説」コーナーの直後に紹介されている。その間に書いているものと思われる。
- 7) 画面をキャプチャーして論文中に掲載することを考えた。だが、本論文は **PDF** 化してサーバーに置かれることになっている。番組の著作権や出演者の肖像権を考えてやめることにした。画面の写真があると圧倒的にわかりやすくなるので残念だが、やむを得ない。
- 8) トランスクリプトを「断片 (excerpt; extract)」と呼ぶのは耳慣れないかもしれないが、会話の一部分、「断片」という意味である。これまで、「インタビューのひとつ目」というつもりで「I1」としたり、「トランスクリプトのひとつ目」という意味で「T1」としたことも、「図1」としたこともあるが、今回は会話分析で使われているものを参考にした (Maynard 2003; Schegloff 2007)。

断片の位置は、分析に使用した **mpeg4** ファイルの開始部分からの時間を「分：秒」で示している。のちに、動きに照準した記述の部分では「分：秒、F」のようにフレーム番号まで示す。日本の **NTSC** 方式は「1秒間に29.97フレーム」の画像からなっているが、基本的に毎秒00から29フレームまでである。フレーム分析につ

いては、南（2001）を参照せよ。断片で使っている記号の凡例を付録2に示した。それを本文で引用するとき、あるいは、断片においても場合によっては、可能な記号をすべて使っているわけではないことをことわっておく。

- 9) 2002年4月のときの番組ホームページは、舞台の情報がより詳しく掲載されている。日程や場所のほかに、脚本や出演者も詳しく紹介されている。開演日が近いということもあるのだろう。ちなみに、NHKは1992年から1997年まで3回のシリーズで『こら！なんばしよっと』を放送している。これは、鉄矢のエッセイ『母に捧げるバラード』（武田 1992）を原作として、鉄矢の生い立ちをドラマ化したものだ。主人公は鉄矢の母イクで、桃井かおりが演じた。
- 10) 『スタジオパークからこんにちは』でも録画ということはある。国会中継などで放送できない日に収録しておいて、ほかの日に放映する。だが、こういったものは印象として全体の1割前後といった気がする。もちろん、これは、「アンコール特集」などといった回を除いて考えたときのことである。たとえば、番組ホームページの「これまでのゲスト」という、3ヶ月ごとにゲストを一覧にしているページで数えると、2006年には合計165人の「トークゲスト」が記載されている。1人だけ再放送があり、164人ということになる。元旦や土曜日、「アンコール特集」のものは掲載されていない。月曜日から金曜日までなので、52週あれば260人となる計算だ。国会中継と休日のほかには、春と夏の甲子園での高校野球の期間は中継のために放送がない。
- 11) エッセイにもこのやりとりは納められている。そこでは、「良く見ておこう」と最初に言ったのは鉄矢ということになっている（原文は縦書き）。

「今年はきつといいことが一杯あるわよ」

節子が歌うように励ましてくれる。うれしかったなあ。

「それは女の勘か？」

半分くらいマジに私が聞くと、節子はくすくす笑った。

「だって、今、最低だもん。もう悪い事はこれ以上やってこないわよ」

私は笑った。節子も笑っていた。

「おい、良く見ておこう。これがドン底の景色だ」

「うん、良く見ておこうね。これからは、もういいことしかないから、きつとなつかしい景色になるわよ。この元日の暗がりは……」

（武田 1992:330）

Goffman を引用したように、著者は「オリジナルそのまま」とは考えていない。

「記憶」の「確かさ」の問題については以下が参考になる (Kotre 1995=1997; 高木 2006)。

付け加えておくと、エッセイでは「金が惜しかったわけではない。二人して歩きたかった」と書かれている (武田 1992: 329-330)。断片 4 の 27 行で「でタクシー代がもたないんで:」となっているところだ。

- 12) 2006年10月の山瀬まみがゲストのときには、ボードを置くための円台はなくなって、その場所に薄型ディスプレイがスタンドにかけて設置されていた。写真や VTR がテレビ画面に映し出されたときは、出演者はそちらを見ているようだった。中央円卓とのあいだに少しスペースがあるようで、この配置であったならば渡邊は岡崎のそばに近づくことができたかと思われる。
- 13) 『徹子の部屋』では、真ん中に応接セット風の低いガラス卓があり、正面から見てその右側に 2 人掛け、左側に 3 人掛けのソファがある。その肘掛けの部分は平らな木製で、座席面からはほんの少し高いというものだ。2 つのソファは直角に置かれ、そのあいだの角の部分はちょっとした空間になっている。徹子は右側、岡崎は左側ソファの中央よりに座っていたので、座ったままでも手を伸ばせば触れるぐらいの距離だ。徹子が肘掛けの部分に軽く腰掛けると、座っていた位置から立ち上がった岡崎の左太腿に十分手が届くという配置になっている。
- 14) この日、徹子は「ウニュウニュ」ということばをすでに使っている。岡崎が持参したレーシングスーツを渡されて触ったときである (23分19秒-)。素材を手で揉むようにして「へ: : : !」と驚きを表示するような「レスポンスクライ」を発する。そして、岡崎の発言にかぶさるように、「こんなウニュウニュ: の、うすいものなの?」と驚きを確認するような問いを発している。「ウニュウニュ」ということばは、薄くて剛性のない、力強さに欠ける様子を表現するものと言えよう。
- 15) 渡邊あゆみと後藤理のコンビのときには、「渡邊あゆみの蔵出しトーク」というコーナーがあり、渡邊がひとりでホストを務めていた。対照的に、有働・小川コンビとなり、時間帯がずっと早くなってそれ以前の部分から 2 人で担当している。

文 献

- Clayman, S. & Heritage, J. 2002. *The news interview: Journalists and public figures on the air*. Cambridge University Press.
- Garfinkel, H. 1967. *Studies in ethnomethodology*. Prentice-Hall.
- Goffman, E. 1974. *Frame analysis: An essay on the organization of experience*. Harvard University Press. = 『フレーム分析』成城大学大学院南ゼミ訳 (出版準備中).

- Goffman, E. 1981a. Response cries. In *Forms of talk*. University of Pennsylvania Press. 78–123.
- Goffman, E. 1981b. Footing. In *Forms of talk*. University of Pennsylvania Press. 124–157.
- 五十嵐素子. 2007. 教える/学ぶ (授業の会話). 前田泰樹; 水川喜文; 岡田光弘編. 『エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社. 175–180.
- Kendon, A. 1990. Movement coordination in social interaction: Some examples described. In Kendon, *Conducting interaction: Patterns of behavior in focused encounters*. Cambridge University Press. 91–115. 初出1970. *Acta Psychologica* 32: 100–125.
- Kotre, J. 1995. *White gloves: How we create ourselves through memory*. Free Press. =1995. 『記憶は嘘をつく』石山鈴子訳. 講談社.
- 黒柳徹子. 2005. 黒柳徹子 (女優) に聴け! : 「人には必ず話がある、人には必ず聞きたいことがある」. 永江朗『話を聞く技術!』新潮社. 5–25.
- Maynard, D. W. 2003. *Bad news, good news: Conversational order in everyday talk and clinical settings*. University of Chicago Press.
- Maynard, D. W., & Schaeffer, N. C. 2002. Refusal conversion and tailoring. In Maynard, D. W., Houtkoop-Steenstra, H., Schaeffer, N. C., & van der Zouwen, J., eds. *Standardization and tacit knowledge: Interaction and practice in the survey interview*. Wiley. 219–239.
- Mehan, H. 1979. *Learning lessons: Social organization in the classroom*. Harvard University Press.
- 皆川満寿美. 1993. 「ホームルーム」(「共同作業所」における): トランスクリプト. 『微視的権力状況における会話分析』(科学研究費補助金研究成果報告書: 研究代表者 江原由美子). 85–104.
- 南保輔. 2000. 成城大学学生の学習時間: マスコミ学科の2つの授業の場合. 『成城教育』109:70–84. (PDF ファイルを公開中 <http://weblab.seijo.ac.jp/yminami/YMinami00p.pdf>)
- 南保輔. 2001. 相互作用研究におけるフレームバイフレーム分析の方法と可能性: 文脈分析の概略とパソコンでの応用例. 『コミュニケーション紀要』第14輯: 129–154. (PDF ファイルを公開中 <http://weblab.seijo.ac.jp/yminami/YMinami01a.pdf>)
- 永江朗. 2002. 『インタビュー術!』講談社現代新書.
- 西阪仰. 1993. 指示の透明性: 参与フレームとしての対象. 『微視的権力状況におけ

- る会話分析』(科学研究費補助金研究成果報告書). 24-40.
- 西阪仰. 1997. 各断片(トランスクリプト)にもちいられている記号. 『相互行為分析という視点: 文化と心の社会学的記述』金子書房. vii-xi.
- Pomerantz, A. 1978. Compliment responses: Notes on the co-operation of multiple constraints. In Schenkein, J. ed. *Studies in the organization of conversational interaction*. Academic Press. 79-112.
- Schegloff, E. A. 2007. *Sequence organization in interaction*. A primer in conversation analysis, 1. Cambridge University Press.
- 高木光太郎. 2006. 『証言の心理学: 記憶を信じる、記憶を疑う』中公新書.
- 武田鉄矢. 1992. 『母に捧げるバラード』集英社文庫.

付録1 「マスコミ基礎演習」授業課題

第3課題 トーク番組の相互作用分析レポート

レポートの構成・内容

1 「トーク番組の相互作用分析」レポート（マスコミ基礎演習 第3課題）

提出の日付、学籍番号、氏名

2 調査方法

どのような手続きでトランスクリプト作成を行ったかを、使用した道具（ソフトなど）も含めて詳しく報告する。

3 トランスクリプト2つとその分析

小濱のものも参照せよ。

4 考察

以下の諸点について考察せよ。（3000字以上）

- a. トランスクリプト作成と分析をしてどう感じたか。
- b. トランスクリプト作成にどんな問題があったか。そのメリットはなにか。
- c. トランスクリプト作成と分析を通じて、どんなことがわかったか。
- d. トランスクリプト作成と分析を通じて、どんな疑問が浮かんできたか。
- e. 分析あるいはその他に、苦心したところなどについて報告・考察せよ。
- f. インタビュー調査・観察調査と比較すると、トランスクリプトにもとづく分析にはどのような利点と制約があるか（第1・2課題レポートを引用すること）。
- g. この授業を通じて、なにを学んだか。

5 文献リスト

[授業で紹介した文献]

樫田美雄. 2004. 調査実習としてのエスノメソドロジー. 山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣. 85-98.

小濱智子. 2001. 美容院における相互行為分析. 樫田美雄編『現代社会の探究（平成12年度徳島大学総合科学部樫田ゼミナールゼミ論集）』63-74.

[以下略]

付録2 凡例

断片（トランスクリプト）でもちいられている記録

| | |
|-------------|------------------------------|
| [| 参与者たちの発話が重なり始めた箇所を示す。 |
| = | 途切れなく発話がつながったことを示す。 |
| () | なにか発話されているが、聞き取り不可能であることを示す。 |
| (でも) | 発話されているが、不明確なことを示す。 |
| (.) | 短い間合いがあったことを示す。 |
| (n) | 約 n 秒間ことばが交わされなかったことを示す。 |
| (()) | 起こしている人間による出来事の表現を示す。 |
| : | 直前の音が延ばされていることを示す。 |
| <u>はっきり</u> | 音が強調されていることを示す。 |
| - | ことばが不完全なまま途切れたことを示す。 |
| ? | 文末の音が高くなっていることを示す。 |
| ↑ | イントネーションの急激な上昇を示す。 |
| > < | 不等号間が早口で話されていることを示す。 |
| hhh | 呼気音を示す。 |
| .hhh | 吸気音を示す。 |
| ¥ | 笑いながら言われている部分を示す。 |

(西阪 1993 ; 皆川 1993 ; Schegloff 2007)

付録3 2つの再演

武田鉄矢『スタジオパークからこんにちは』(14:47-15:58)

2006年1月12日(木) 放送

キャスター：渡邊あゆみ・後藤理

- 01 渡邊： でそれで燃えて、[燃え上がって
02 鉄矢： [はい
03 渡邊： あの、[俳優デビューもなさって、
04 鉄矢： [はー：：：っ
05 鉄矢： そうなんです：。んで：、ちょっと暮らしに
06 困ってたときにははっきりいって暮らしに困ってたときに
07 松竹の山田洋次監督というたいへんすばらしい
08 監督さんから声をかけられて：
09 .h「映画に出てみないか？」
10 渡邊： [へえ：：：
11 鉄矢： [で、いっしょにやるのはだれですか？ってきいて
12 高倉健というひとだ。
13 もう、夢のようでしたねえ。
14 渡邊： ね：：え、[(ほんとに)
15 鉄矢： [ぼくは：この作品で、日本がほこる有名な
16 俳優さんふたりとデビュー作で出会うと＝
17 渡邊： ＝はい＝
18 鉄矢： ＝いっぽんが高倉健ってゆう俳優さんで
19 渡邊： [はい。
20 鉄矢： [..h もうひとりが渥美清という俳優さんでした。
21 渡邊： [はい
22 後藤： [(う：ん)
23 鉄矢： (.) このおふたりが (.) かけだしのぼくを
24 かわいがってくれるんですね：：：
25 渡邊： へえ：：：
26 鉄矢： 健さんは、ぼくが山田監督の演出がきびしくて
27 しかられ (.) てべそかくと
28 .hhh いっつもはげましてくださる (.)

- 29 かたでしたねえ：
- 30 渡邊： [はい。
- 31 後藤： [(ふ：：：ん)
- 32 鉄矢： っから渥美さんは、あの (.)
- 33 出演のすきまにとつとつと>こうくいろんなことを
- 34 渡邊： はい。
- 35 鉄矢： そんなかでよくおぼえてるのは .hhh
- 36 あの、寅さん、寅さんとよばれて
- 37 渡邊： [ええ
- 38 鉄矢： [渥美さんもたいへんですねえ：
- 39 なんつってごますってたんですよ。
- 40 渡邊： はい。
- 41 鉄矢： 駆け出しだから。
- 42 そしたら渥美さんから、ピシッとね。
- 43 てっちゃん。(.) あのね、役者がね、.hh
- 44 あの、役名で呼ばれるってなあ、名誉なことだよ：
- 45 ってゆう
- 46 渡邊： はあ：：：。
- 47 鉄矢： それいまだに忘れませんね。
- 48 渡邊： それでいま、金八先生と呼ばれ [るようになって
- 49 鉄矢： [(そうなんで) す

付録4 どん底支えた妻のひと言

武田鉄矢『徹子の部屋』(23:07-24:50)

2006年5月29日(月)放送

- 01 徹子： そうですね。でも、そのまえにまた
 02 鉄矢： ん：：
 03 徹子： あの、母に捧げるバラードで、バーンて
 04 有名におなりになって
 05 鉄矢： はい
 06 徹子： そのあと、ほ：んとに仕事がないってお話し
 07 ここでして下さったじゃない＝
 08 鉄矢： ＝そうですね2年ぐらい仕事なくて：
 09 それで女房妊娠しちゃって：
 10 (.)
 11 徹子： でなんかお皿洗いかなんか [してたの
 12 鉄矢： [そうですスナックで＝
 13 徹子： ＝原宿でね
 14 鉄矢： スナックの、あの：台所のほうで、.hhh
 15 ふたりでい：ん5千円もらうために
 16 (.) あの皿洗いをしたことが [あります
 17 徹子： [みなさん信じられますか
 18 母に捧げるバラードがありだけヒットしたのに：
 19 .hhh そのあとなんだかお仕事がなくなっちゃって
 20 お皿洗いしてた。それで .hh 紅白歌合戦が始まるころ (.)
 21 鉄矢： ええ [ええ
 22 徹子： [に：閉めて (.)
 23 鉄矢： はい
 24 徹子： 初詣の人がくるときに (.) 帰る。
 25 鉄矢： はい。女房と [ふたりで、
 26 徹子： [お店を閉めて、うん。
 27 鉄矢： はい。でタクシー代がもったいないんで：
 28 妊娠何ヶ月6ヶ月でしたけど
 29 徹子： [うん

- 30 鉄矢： [女房といっしょに、.hhhhh やっぱりあのう：：
- 31 除夜の鐘の鳴る夜をね：＝
- 32 徹子： ＝うん
- 33 鉄矢： ふたりで歩いた思い出ってゆうのは（
- 34 徹子： でそのときあなたの奥様は＞な：んでひとの話を
- 35 こんなよくおぼえて [るのかしらく
- 36 鉄矢： [(哄笑))
- 37 徹子： あなたの奥様が：
- 38 鉄矢： ＞いいこといっぱいある [んですけどく
- 39 徹子： [これ以上悪くはならない
- 40 [わねと
- 41 鉄矢： [は：い
- 42 徹子： ＞おっしゃったんじゃない（.）
- 43 [そうじゃありません？<
- 44 鉄矢： [はいはい。
- 45 徹子： うん。
- 46 鉄矢： あの、ここをよく見とこ：ねって
- 47 突然ゆうもんです [からねえ
- 48 徹子： [ん：
- 49 鉄矢： なんでだ：ていったら
- 50 いや、ここがどん底だからって
- 51 徹子： ふ：ん。
- 52 鉄矢： もう、あとは上がるだけってゆう
- 53 徹子： ね：↑え
- 54 鉄矢： ええ
- 55 徹子： そのあと金八先生（.）にな [ったわけ
- 56 鉄矢： [あっ、黄色いハンカチが
- 57 来るんですよ。
- 58 徹子： あっ、黄色いハンカチが [来たんだ、山田洋次
- 59 [パン（（手をたたく音）
- 60 [さんの。
- 61 鉄矢： [も：う、
- 62 徹子： [そ：そ：そ：そ：そ
- 63 鉄矢： [ほん、そ、その話しをして、（.）にさん週間で

- 64 黄色いハンカチのお話しが来るんです
- 65 徹子： ん：：
- 66 鉄矢： もうそれはもう、ほんとに、ゆめのようでしたね＝
- 67 徹子： ＝映画でもんねえ＝
- 68 鉄矢： ＝〔映画で
- 69 徹子： ＝〔主演級の役ですからね。
- 70 鉄矢： しっかもトップバッターで
- 71 主演の人は高倉〔健
- 72 徹子： 〔しかも高倉健さん（.）と
- 73 〔ごいっしょ
- 74 鉄矢： 〔ほくね、渥美清さんのまえに名前があったんですよ。
- 75 徹子： （.）（あ、〔そう）
- 76 鉄矢： 〔それがね、売れない自分にとってどれほど
- 77 奇跡のような仕事か：
- 78 徹子： ね：：〔え
- 79 鉄矢： 〔え：え：
- 80 徹子： それで：金八先生になって
- 81 鉄矢： 〔そうです
- 82 徹子： 〔いくわけです〔よねえ：
- 83 鉄矢： 〔はい
- 84 （.）
- 85 徹子： まあねえ：
- 86 鉄矢： でも（（音声カット））

付録5 「ピンとしてるかんじ」

岡崎朋美『スタジオパークからこんにちは』

2006年3月9日(木) 放送 (19:53-21:15)

キャスター：渡邊あゆみ・後藤理

岡崎朋美の成長を振り返るというテーマのなかの「悔し涙……」という部分の一部である (17:11-)。富士急行のスケート部に入社して選手として大成するわけだが、入社当時は先輩の橋本聖子がこなしていた練習メニューについていけなかったという。まず、そのまえに入社の経緯が話される。釧路での高校時代にスケートをやってはいたものの、卒業して社会人になるつもりだったという。それが、高校2年生のときに釧路で開催された試合で、富士急行の監督に発掘されたというのである。

- 01 岡崎： ➡ 出会ったんですけども。
 02 ((画面に橋本聖子と長田監督と一緒の写真))
 03 渡邊： ほ：
 04 後藤： ふ：：：ん
 05 岡崎： ん：
 06 渡邊： あ、この3人が出会ったってことですか？
 07 岡崎： ㄹそ：ですねㄹ .hhh
 08 渡邊： [わ：：
 09 岡崎： [はい：hhh
 10 後藤： [ほ：：：
 11 渡邊： あ、それで＝
 12 岡崎： ＝ええ
 13 渡邊： ➡ .hh ひょっとすると、スカウトってゆうことですか。
 14 岡崎： ➡ そ：ですね＝
 15 渡邊： ＝ええ
 16 岡崎： ただ、監督がゆうには、.hh あの：その 高校生の、
 17 女子の、部のなかで：.hh あのすごくこう (.)
 18 ➡ 太ももってゆうんですかあしが：
 19 ➡ すごく発達してる子を発見したと
 20 ➡ ((うなずきながら)) ゆう hh
 21 渡邊： [はい

- 22 岡崎： ➡ [ことで：hhh 辛さがされたんですね辛 .hhh
 23 渡邊： ➡ 太ももの [張り具合
 24 岡崎： [hehehe
 25 辛はい辛 hh
 26 後藤： は：：：
 27 ((岡崎の太腿がアップで映る))
 28 渡邊： すごいですね [それは↑
 29 後藤： [ね：やっぱり [そういう
 30 岡崎： [はい
 31 渡邊： へえ： [：：：
 32 後藤： [ね：
 33 岡崎： [()
 34 渡邊： ➡ [ちょっと触ってもいいですか=
 35 岡崎： ➡ =辛ああ、どうぞどうぞ辛 hehehhh
 36 渡邊： ➡ 後藤が触ると [問題でしょうけど
 37 後藤： ➡ [え辛いやいやいやいや辛
 38 渡邊： ➡ あたくしが触 [るんだったらね [：
 39 後藤： ➡ [辛そんなことは
 40 岡崎： [はい。
 41 後藤： ➡ できません辛 hhh
 42 渡邊： ➡ ((立て、後藤を振り向く))
 43 後藤： 辛はいもう辛 hhh
 44 渡邊： ➡ たしかお正月のときに：=
 45 後藤： =はい
 46 岡崎： ((立ち上がる))
 47 渡邊： ろくじゅっセンチぐらいあるって伺っ [て
 48 岡崎： [そ：ですね。
 49 渡邊： ➡ どっちが太いんでしたっけ。
 50 岡崎： ➡ (.) えっと、
 51 ➡ ((左手で左太腿を触りながら)) こっちの方がたぶん
 52 [太いとは思うんです=
 53 渡邊： [((左手で左太腿を触る))
 54 岡崎： =いまちょ [っと (.)
 55 渡邊： ➡ [あ：：

- 56 岡崎： ピチピチのを (はいて)
- 57 渡邊： ➡ [すっごい
- 58 後藤： ➡ [じゃあ私にも分かるようにちよっ [と
- 59 岡崎： [まあでも
- 60 後藤： ➡ 教えてください。
- 61 一同： ((笑い))
- 62 渡邊： あの：：
- 63 岡崎： huhuhu
- 64 渡邊： ➡ いやこれ (.)
- 65 岡崎： まだで [も
- 66 渡邊： ➡ [なにを基準にはなすかってゆう
- 67 ➡ [ことにもよるんですけども。 .hhh
- 68 後藤： [¥あ：そうですか。 ¥ hehe
- 69 渡邊： ➡ あたくしの太ももよりもはるかにこう
- 70 岡崎： [はい
- 71 渡邊： ➡ [なんというか (.) ピンとしてるかんじ [ですね。
- 72 岡崎： [はい。
- 73 ➡ 張ってますよね。
- 74 渡邊： ➡ [張ってますよね。 =
- 75 後藤： [いや：：
- 76 岡崎： はい。
- 77 渡邊： ➡ .hh 合うジーンズって ((座る))
- 78 ➡ たいへんじゃないですか？
- 79 岡崎： ➡ そう ((座る))
- 80 ➡ 大変ですね。 =
- 81 渡邊： =ね [：
- 82 岡崎： [でこれも (.) ストレッチが入っているんで
- 83 まだ入るん¥ですけど。 ¥ [hhh
- 84 渡邊： [ね：？
- 85 岡崎： ➡ はい。
- 86 岡・渡： ((1回腰を浮かせて座り直す))
- 87 渡邊： ➡ .hh でとにかくその太ももの張りに：
- 88 岡崎： はい。
- 89 渡邊： ➡ .hh 監督は惚れたと

- 90 岡崎： そう「ですね。はい
- 91 渡邊： 「はい。
- 92 渡邊： それで：じゃあ富士急に入って。
- 93 岡崎： そうですね最初はもう（.）あのう（.）監督が
- 94 来たときには：あの、富士急行の監督ってゆう
- 95 もう知らなかったの：.hh
- 96 もう（.）率直にもう、いやわたしはもうやめますと
- 97 渡邊： ん。
- 98 岡崎： あの：する気はないですってゆうことはもう、
- 99 ゆったんですけど。ただ、あとあと聞くと：あのう
- 100 その監督：にならってるのが
- 101 橋本聖子さんだってゆうのを聞いて：
- 102 渡邊： ええ
- 103 岡崎： それででもう一気に変わっちゃって hh
- 104 一同： ((笑い))

付録6 太腿の話題化と笑い

岡崎朋美『徹子の部屋』

2006年4月5日(水) 放送 (15:06-16:13)

- 01 徹子： さっきからあたし気になってんですけどあなたの
02 やっぱり太ももってというのが [みんなね。
03 岡崎： [huhuhu
04 はい。
05 徹子： あのう、((パチと自分の右太腿をたたく))
06 いい [太ももって ((パチと再度)) hhhhh
07 岡崎： [hhhhhh
08 徹子： [¥ほら言われている [じゃない
09 岡崎： [.hhh [¥は：い
10 [そうですね¥
11 徹子： [それでね。ん：ん：¥
12 やっぱりあれなんですってその太ももの太さも：
13 岡崎： はい。
14 徹子： .hh その時によって違ってくるんですって
15 なんセンチとかって。
16 岡崎： そうですねあの：、夏：場はほんとに、ウエイトとか
17 やりますので：=
18 徹子： =うん=
19 岡崎： =やっぱりパンっと張ってるんですよ=
20 徹子： =ん：
21 岡崎： ただあのシーズンに入りますとそれを：少しづつこう
22 .hh 調整：に入っていくので：
23 徹子： ん：
24 岡崎： 落ちていくんですよ。=
25 徹子： え：：
26 岡崎： でもその、落ちていくっていうのはすごく、調子 (.) の
27 いい筋肉に (.) なる n 丁度いいとゆうかいっぱい
28 いっぱい (.) 筋肉を作って：
29 徹子： ええ

- 30 岡崎： ちょうどいい筋肉に (.) おさ (.) まるんですね、
31 そのシーズン [ちゅう。
32 徹子： [あそ：：：
33 岡崎： なのでそういう調整を (.) してますけどそうすると
34 ちょっと細くなるんですね。=
35 徹子： =いまはそうすると、どうゆうー
36 (0.8)
37 徹子： [()
38 岡崎： [いまはもう (.) フリー。フリーというか
39 もう [休みなので：=
40 徹子： [huhuh
41 徹子： =どうでもいいような？=
42 岡崎： =huhuhuh [そう。
43 徹子： [どうでもいいってことはない。
44 岡崎： [もう
45 徹子： [で：。その失礼ですよね [あなたの筋肉に対してね
46 岡崎： [(もう)
47 すごい柔らかくなって [ますね：
48 徹子： [いま柔らかくなってんのあそう=
49 岡崎： =はい=
50 徹子： =柔らかくなるのそ [うすると。
51 岡崎： [なりますね。
52 徹子： あそう [ですか。
53 岡崎： [筋肉がおちてるので hhhhh
54 徹子： あっ筋肉が落ちてると柔らかくなる？
55 岡崎： なりますね。
56 徹子： ん：： [：
57 岡崎： [はい。ですね=
58 徹子： =なるほどね hh [hhhh
59 岡崎： [huhuhuhu
60 徹子： ま (.) あのちよっとあとでもうちよっと詳しく
61 おみあし () それからきょうはあの (.)
62 岡崎： はい。
63 徹子： スケートとか、お召しになるものね

岡崎朋美『徹子の部屋』

01 徹子： おみ足なんですけど
02 ((両手で両太腿脇を1回前後にさすりながら))
03 え：といまんセンチ
04 (.) でしたっけ。
05 岡崎： いまはごじゅう：うろく、ななぐらいですね＝
06 徹子： ＝ななセン [チ。
07 岡崎： [はい。
08 徹子： いちばん調子のいいときってゆうのはどのセンチ
09 ぐらいなんですか？
10 岡崎： 調子がいいのははち：とかですな＝
11 徹子： ごじゅうはっセンチぐ [らい
12 岡崎： [はい。
13 徹子： ちょーっと、触らしていただいいてい [いですか＝
14 岡崎： [あ、はい。
15 徹子： ＝女性だからいいかな。
16 岡崎： ((立ち上がろうと体の両脇でソファに手をつく))
17 はい。
18 徹子： い↑：い
19 ((岡崎よりにソファの右端に移動しながら)) ちょっと
20 じゃあちょっとええ、ちょっ、
21 岡崎： ((腰を浮かして少し徹子によってまた下ろす))
22 あ

- 23 微子： いいです（か）？
24 ((座ってる岡崎の右腿の上に両手を起きかける))
25 >すいませんちょっとお立ちになって
26 [いただいて [いいですか。
27 岡崎： [hhhhhh [((立ち上がる))
28 微子： .hhh すいませんけどちょっと触らせていいですか、
29 (.)
30 微子： いいで [すか？<
31 岡崎： [あ、いまちょっと柔らかい
32 [かも
33 微子： [((パンと叩く))
34 岡崎： [しれないですね：。
35 微子： [((パンパンパンパンパンと続けて合計5回叩く))
36 微子： ああでもね： ((最後のパンパンがこの箇所))
37 岡崎： [hhhhh
38 微子： [いい： hhh おとみなさん
39 観客： ((笑い))
40 微子： こんな音って！
41 ((パンパンと5回速いテンポで叩く))
42 岡崎： [いまちょっとねいま
43 微子： [なるほどねこの足 ((上下にさすりながら))
44 ((右手で左太腿を軽くつかみながら下げていく))
45 やっぱここが [いちばん
46 岡崎： [は：：い
47 微子： (.) あれ [ですよね：
48 岡崎： [そうですね
49 微子： ((左太腿側面をさするようになげながら))
50 [よく出来てますね .h ええ
51 岡崎： [あてこの ((左手で左太腿の裏側をなでおろす))
52 うらきんがけっこうすごい
53 んで [(す)
54 微子： [あ>ここがすごい<あっ
55 ((右手で太腿の裏側を触る))
56 ここが [すごい！

- 57 岡崎： [ここは：
58 あ、ここふつう
59 ((手を放す))
60 岡崎： はい。((体を右にひねって徹子から距離を取る))
61 徹子： 女のひとの後ろって [ここが ((と太腿裏側を触る))
62 岡崎： [hhh
63 徹子： ウニウニウニしてますよね＝
64 岡崎： ＝はい：
65 徹子： ここがすごい！
66 ((裏側をバンバンバンと3回叩く))
67 この音 hh ♪ごめん [なさいねあなたね♪
68 岡崎： [uhhh
69 hhhhhh
70 徹子： ((直前に左手で岡崎の左太腿前側に触れる))
71 子どもじゃないのにこんなたたいたりして。
72 でも後ろがね＝
73 岡崎： ＝はい＝
74 徹子： ＝いい筋肉 [だって>こんなですよ皆さん
75 岡崎： [この：
76 [ここが：けっこう張ってるんです hhh
77 徹子： [((10回バンバンと裏側を叩く))
78 徹子： ここが張ってますくねえ>＝
79 岡崎： ＝はい [ですね
80 徹子： [この後ろが。
81 岡崎： はい hhh
82 徹子： あこれ (.) ちょっと自慢でしょ
83 [ここんとこね
84 岡崎： [自慢ですね hhhhhh [hh
85 徹子： [ねえ？ちょっと
86 だってみなさんほら
87 ((立ち上がる))
88 >あたしなんかぜんぜんしませんよそんな音<
89 ((自分の左太腿裏側を左手で2回叩く))
90 ほらこんな音

- 91 ((3 回目に叩く音にかぶって)) です
 92 なんかね。
 93 ((座りながら)) .hhh いやでしょう hh
 94 なんか
 95 岡崎： ((座りかける))
 96 徹子： ((両腿裏を両手で 2 回叩きながら))
 97 あの響きが悪いのよあなたの場合
 98 ((岡崎の左腿裏を 5 回叩く))
 99 いいですねえ。
 100 岡崎： ((笑いながら座る))
 101 観客： ((笑い))
 102 徹子： ねえ：
 103 岡崎： ((座って)) ♪はい ♪
 104 すごい音楽的ないい音がしますねえ：
 105 ((ソファの中央へ戻る))
 106 岡崎： ありがと [うござい (ます)]
 107 徹子： [やはりねなるほどね。
 108 岡崎： はい。
 109 徹子： ((自分の両太腿を両手で 1 回前後にさする))
 110 スピード選手は
 111 ((両ひざちょっと上を軽く 1 回叩く)) 前もいいけど
 112 ((両腿裏を軽く 3 回叩きながら)) 後ろもいい
 113 筋肉 [が。
 114 岡崎： [そうで [すね。
 115 徹子： [あほんとだ。
 116 そこんところ
 117 ((自分の左太腿を両手で 3 回前後のさすりながら))
 118 あや：ね：？
 119 岡崎： hhhhh
 120 徹子： さわってみるとほんとにグニユグニユだわ。
 121 岡崎： hhhhhh
 122 徹子： ♪ね：♪ ((左腿を左手で 3 回前後にさする))
 123 岡崎： ((笑いながら 2 回頷く))
 124 なかなか (.) この

- 125 ((右太腿を持ち上げて裏側を右手で3回さする))
126 うら - [の
127 徹子： [うしろね。=
128 岡崎： =はい。つく-つけつかないんですね。
129 徹子： ふ：んで、下は、
130 ((岡崎の左ふくらはぎを触りながら))
131 このへんはどうなんですかこの下は：
132 ((上半身を起こして)) 別につく必要はないの
133 あなたの=
134 岡崎： =いえふくらはぎも：
135 徹子： やっぱりついてる。
136 岡崎： はい。
137 徹子： ふ：：ん： [：
138 岡崎： [子持ちししやもみたい
139 [ですけど。
140 徹子： [まあね。((右手を岡崎のふくらはぎに伸ばす))
141 ((軽く2回叩きながら)) あほんとだほんとだ。
142 岡崎： hhh
143 徹子： ((上体を起こして)) でもやっぱり
144 なんつってもいまよかったのは、腿の後ろですね。=
145 岡崎： =はい。
146 徹子： あそこはだってふつうグニユ： ((両腿を両手で触る))
147 ((両腿裏を2回前後にさすりながら))
148 やわらかいでも [のね：
149 岡崎： [は：い。
150 徹子： そこんとこがもう .hhh パンパンですもん [ね
151 岡崎： [はい。
152 徹子： パンパンっていい意味の [ね<パンパン>
153 岡崎： [ええ
154 [hhh
155 徹子： [ってゆうか .hhh ほんと [：にあの
156 岡崎： [(はずかし：)
157 徹子： (.) 洗練されたパンパン
158 岡崎： はい。hhh [hhhh

- 159 徹子： [ね：え hhhhh
160 すすごくいい [ですよね
161 岡崎： [そうなんですよ。
162 徹子： まあきょうは良かったです岡崎さん [触らしていただき
163 岡崎： [はい
164 徹子： ましたので。そういうところ .h あんまり触った (.)
165 男のひとっています？
166 岡崎： いえないですね。hhh
167 徹子： あほんと。hhh
168 岡崎： はい。
169 徹子： すすあーら良かった。
170 有難う [(お辞儀しながら)) ございました hhhh
171 岡崎： [はい。hhh
172 徹子： ちょっと自慢 hhh ((再度お辞儀))
173 岡崎： あははは
174 徹子： >それではコマーシャルです。<
175 岡崎： はい。

付録8 徹子が黙ったとき

山瀬まみ『徹子の部屋』

2006年3月3日(金) 放送 (26:54-28:29)

- 01 徹子： で、そっちの。
- 02 山瀬： ➡ はい。これが：いちばん：（(部屋着を指して座る)）
- 03 ➡ 作りたかったものなんです [けど
- 04 徹子： [ええ、ええ
- 05 山瀬： (0.8) これも：あの：（(服を右手で引っ張る)）
- 06 ➡ 家事をするのにうってつけの服で [ですね、
- 07 徹子： [はい
- 08 山瀬： まあいちまいでストンと着ても良し：＝
- 09 徹子： ＝ん
- 10 山瀬： あととはなかに：.h 自分が着てた－ふつうに
- 11 ティーシャツジーパン着てい [る上に着ても
- 12 徹子： [ん
- 13 山瀬： い [いし：
- 14 徹子： [ん
- 15 山瀬： でこれ（.）こう見るとワンピースなんですけど＝
- 16 徹子： ＝え：え：＝
- 17 山瀬： ＝たとえばこう、お風呂掃除したいときとかって
- 18 （(服の裾を掴んで下に引っ張る)）
- 19 [裾がついちゃって
- 20 徹子： [え：
- 21 え：
- 22 山瀬： 濡れたり [するじゃないですか。
- 23 徹子： [そうそうそう
- 24 山瀬： これ（(正面裾下のボタンを外す)）
- 25 ボタンなあってん (1.4)
- 26 うしろとまえをね。
- 27 徹子： ん＝
- 28 山瀬： ＝ボタンを外して：＝
- 29 徹子： ＝え：

- 30 山瀬： ((後ろ側のボタンを外す：3.0))
 31 ((椅子から立ち上がってしゃがむ))
 32 ((正面の裾を掴む))
 33 ここを止め直すと：＝
 34 徹子： ＝え：
 35 山瀬： ズボンになるんですよ。
 36 徹子： おお：：。
 37 (.) え？そこおっちゃんってゆう感じねちよっとね。
 38 山瀬： そうです [ね。 [こうやって。
 39 徹子： [中に入れ [込んじゃう。
 40 山瀬： ほんととはもっと上まで
 41 (0.8)
 42 徹子： あがれる
 43 (0.6)
 44 山瀬： 止められんですけど：
 45 徹子： え：
 46 山瀬： (.) こうやるでしょ：
 47 ((右裾のゴムひもを引っ張る))
 48 徹子： んふん。
 49 山瀬： と：、両方こうやってズボンになって：
 50 徹子： んふん
 51 山瀬： ((左裾もまとめる：0.8))
 52 徹子： >あごらんになりまーあそうみなさんごらん
 53 なりまーぜんぜんスカートってゆうく
 54 イメージじゃなくなりますよねえ。
 55 山瀬： (0.5) そ [う。
 56 徹子： [()
 57 でなかに履いてたズボンとかもなかに入れ込んで
 58 [しまえば：
 59 徹子： [一緒にね：ん：
 60 山瀬： 汚れないですし： (.) あとあの：
 61 家事をするのに白い服って：.hh 汚れるじゃん
 62 ((徹子へ向き直りながら))
 63 と思うけど漂白できるから：＝

- 64 徹子：＝あ：逆に [ね。
65 山瀬：[逆にはい ((立ち上がる))
66 徹子：ん：：ん
67 山瀬：((立ち上がって服を指し示しながら))
68 お風呂掃除で：漂白剤が飛んで：
69 (.) 色落ちすることもないです [しね。
70 徹子：[そうですね。
71 山瀬：ええ＝
72 徹子：⇒>あなるほどねでも .hh あのこの方の考えとしては
73 .hh じゃあそんなもの働き着でやっちゃえば
74 いいんじゃないかと思いかもしれないですー
75 すぐ出かけたり< (.) ね?＝
76 山瀬：((裾を直している))
77 ＝そうな [んですよ。
78 徹子：[あの：
79 ハンコ下さいってときにスツとでー出られる
80 あんまだらしがない (.)
81 格好じゃないのがこういうのはねほんとにあの：
82 ➡ スカートだったのが急におズボンになりました。＝
83 山瀬：＝は：い。
84 徹子：ん：：

When Tetsuko stopped talking:
A comparative study of two Japanese TV talk shows

MINAMI Yasusuke (Seijo University)

yminami@seijo.ac.jp

<http://weblab.seijo.ac.jp/yminami/>

ABSTRACT

Tetsuko Kuroyanagi has been a hostess of a TV talk show, *Tetsuko's Room*, for more than thirty years. In order to provide a demonstrative description of Tetsuko's skills as a talk show hostess, a comparison is made between this program and another one broadcast by NHK, *Hello from Studio Park*. Three shows from the two programs are compared, each pair of shows having the same guest. For each of the three paired shows, the portions dealing with the "same" topic are chosen and transcribed for analysis.

When a singer and actor, Tetsuya Takeda, was a guest, he replayed interchanges which mark some moments of his career as an entertainer. While at *Hello*, Tetsuya replayed these interchanges without prompting from the hosts, however, at *Room*, Tetsuko made focused attempts to solicit a specific exchange that included the words of encouragement of Tetsuya's wife who worked to keep their spirits high while they were struggling economically. Tetsuko's personal knowledge and memory about the guest seem critical to eliciting this exchange.

When a speed skater and Olympic bronze medalist, Tomomi Okazaki, was a guest, the size of her thighs was one of major topics. In both shows, the hostess touched her thigh. While the hostess of *Hello* just rubbed, Tetsuko slapped Okazaki's thigh twenty-eight times. She made slapping sounds that could be heard by the audience so as to show how "good" Okazaki's muscles are. Tetsuko even slapped her own thighs to make a contrast.

Although Tetsuko's superior skills usually work well and make the talk interesting and enjoyable, she remained silent while Mami Yamase changed styles of the clothes of her designing from skirts to pants. Pauses of few seconds long were heard while watching Yamase change styles. Because the audience was distracted during the time

Yamase was changing styles, the length of the pauses was not as noticeable as it might have been otherwise. Still, the fact that Tetsuko did not talk for that long stood out.

Comparisons of the same guests talking about the “same” topics have provided several important findings. First, Tetsuko Kuroyanagi has superior skills of eliciting interesting stories from her guests. Second, however, even Tetsuko is sometimes forced to remain silent while the talk show guest engages in preparatory activities. Third, therefore, “chattiness” should not be attributed to a person but should be considered an attribute of the situation.

KEY WORDS: Japanese TV talk shows, interaction analysis, interviewing skills, replaying